社　会　科　教　室

第　162　号

平成２７年度

香川県小学校教育研究会社会科部会
香川県小学校社会科教育研究会

全国大会に向けての実践研究を

「校長先生！」と声をあげながら、運動場の端にいた私のところまで、一冊のノートをもって校舎の方から走ってくる女児の姿が目に焼き付いて離れません。その女児のノートには、２ページにわたって調べの結果が書かれていました。女児の目には、確かな眼力がありました。これは、この４月に新しい学校に赴任して、はじめて全校朝会で「はてな」を出した次の日の朝の光景です。新しい学校に赴任して以来、ずっと全校生に出す「はてな」を考え続けていました。小学校の校内を歩き回り、学校の創立１００周年記念誌や観音寺史誌を読み、地元の先輩教師に話を聞き、一生懸命に「はてな」を探しました。また、１年生から６年生までに分かる具体は何かを考えました。そして、考えついた「はてな」が、「どうして体育館の正面に、井戸があるのだろう？」という「はてな」でした。学校の一等地になぜ井戸があるのか、不思議です。この不思議を子どもたちに伝えました。次の日から子どもたちの追究が始まりました。自分なりの予想を考えてくる子、家族と一緒に予想を考えてくる子、家族に話を聞いてくる子、近所のおじいさんに話を聞いてくる子、中学年の地域学習のときのファイルを探してくる子などがいました。延べ９５名の児童がノートをもって校長室にやってきました。みんながわくわくドキドキしながら、校長室にやってきていたように思います。

子どもたちの予想や調べには、小学校の場所には昔お城があったのでお殿様の料理をつくるための井戸、戦争中に避難してきた人のための井戸、地震などのときに避難してきた人のための井戸、学校に給食室があったころに給食をつくるために使う井戸、庭にある木や花に水をやるための井戸などがありました。たくさんの調べの中に、おじいさんにインタビューした子の調べがありました。その調べには、学校が今の場所にできる前、その場所には、２軒の家が建っていて、その２軒のうちの１軒は祖父の父の家で桶屋だったこと、もう１軒が下駄屋だったこと、そしてその２軒は、学校が今の場所に建つことになったために立ち退きとなったが、使っていた井戸はそのまま残ったということが書かれていました。この「はては」を調べることによって、学校の歴史が見えてきました。「はてな」の追究の先には、学校の歴史がありました。

平成２９年２月に本県で開催する全国小学校社会科研究協議会研究大会並びに第４１回四国社会科教育研究大会香川大会の大会主題は「自ら社会に参画する資質・能力を高め、社会科の魅力を創る教育」です。この大会主題に含まれる「社会科の魅力」を研究する視点として、本年度の本部提案では、視点１：目指す子ども像とつかませたい社会認識の明確化、視点２：社会参画を意識した指導計画の作成、視点３：子どもが実感的な問題意識・課題意識をもち、主体的に意欲をもって課題を解決する学習の在り方を掲げています。前述した拙い「はてな」の実践には、視点１や視点３にかかわる内容が含まれているのではないかと思います。本年度は、全国大会に向けて、高松市立十河小学校、観音寺市立観音寺小学校の研究を中心に、本格的に実践研究が始まります。定例研や夏季研等でも、常に県下の先生方が具体的な実践を持ち寄りながら、子どもの姿の変容で提案の有効性を検証できる実践研究を推進したいものです。

香川県小学校教育研究会社会科部会
香川県小学校社会科研究会
（部）会長　柴田　英明

研究主題

自ら社会に参画する資質・能力を高め，社会科の魅力を創る教育

香川大学教育学部附属高松小学校　河田　祥司

Ⅰ　研究主題について

1　研究主題設定の背景

日本において，人口減少，少子高齢化，グローバル化などが加速的に進行している。この中で，学校はどう変わらなければならないのか。大きく２つのことを挙げたい。

１つは，「論点整理に関する検討会」「２１世紀型スキル」「道徳の特別教科化」「新学習指導要領中教審諮問」などから分かる，資質・能力の育成による実社会・実生活に生きる教育の在り方である。文部科学省の「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」から，次期学習指導要領の基礎資料として論点整理が出された。（以下，「論点整理」とする）それをもとにして各研究者から，様々な論が提議される中，児童生徒にどのような資質・能力を身に付けさせるかが大きな課題となっている。香社研では，社会科の目標である「公民的資質の基礎を養う」ことにつないで，よりよい社会の形成に参画（社会参画）する資質や能力を育てていきたい。

もう１つは，学校づくりである。 2014年7月25日，内閣官房に「まち・ひと・しごと創生本部」設立準備室が発足したこと。民間の日本創生会議（座長・増田寛也元総務相）が地方自治体の半数を「消滅可能性都市」として衝撃を与えた”消滅自治体リスト”にも見られるよう，地方の未来や存在意義が見直されていることなどからも分かるように，地域の中の学校，地域創生・地方創生の核としての「学校づくり」が問われている。地域の拠点としての学校は，教育内容を教える教育機関から，地域の核として，地域，県や市の行政，各種団体と連携した「協働」する新たな取り組みが求められている。

香社研では，地域の核となる学校や求められる資質・能力を社会科を通してどのように実現していけばよいか考えていきたい。これまでの研究を踏まえ，研究主題を「自ら社会に参画する資質・能力を高め，社会科の魅力を創る教育」と設定した。「資質・能力」を育成するために社会科のもつ魅力を重視して教育を創っていくことをテーマとして置き，研究を進めたい。

2　研究主題のもつ意味

①「資質」「能力」の概念整理

「資質」とは，「能力や態度，性質などを総称するものであり，教育は，先天的な資質を更に向上させることと，一定の資質を後天的に身に付けさせるという両方の観点をもつものである」とされており，「資質」は，「能力」を含む広い概念として捉えられている。「論点整理」では，「資質」と「能力」の相違に留意しつつも，「資質・能力」として，一体的に捉えている。

②　社会科が目指す資質・能力

小学校社会科の目標は，「社会生活についての理解を図り，我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。」とあり，どのような人間を育てようとしているのかということが，はっきり打ち出されている。

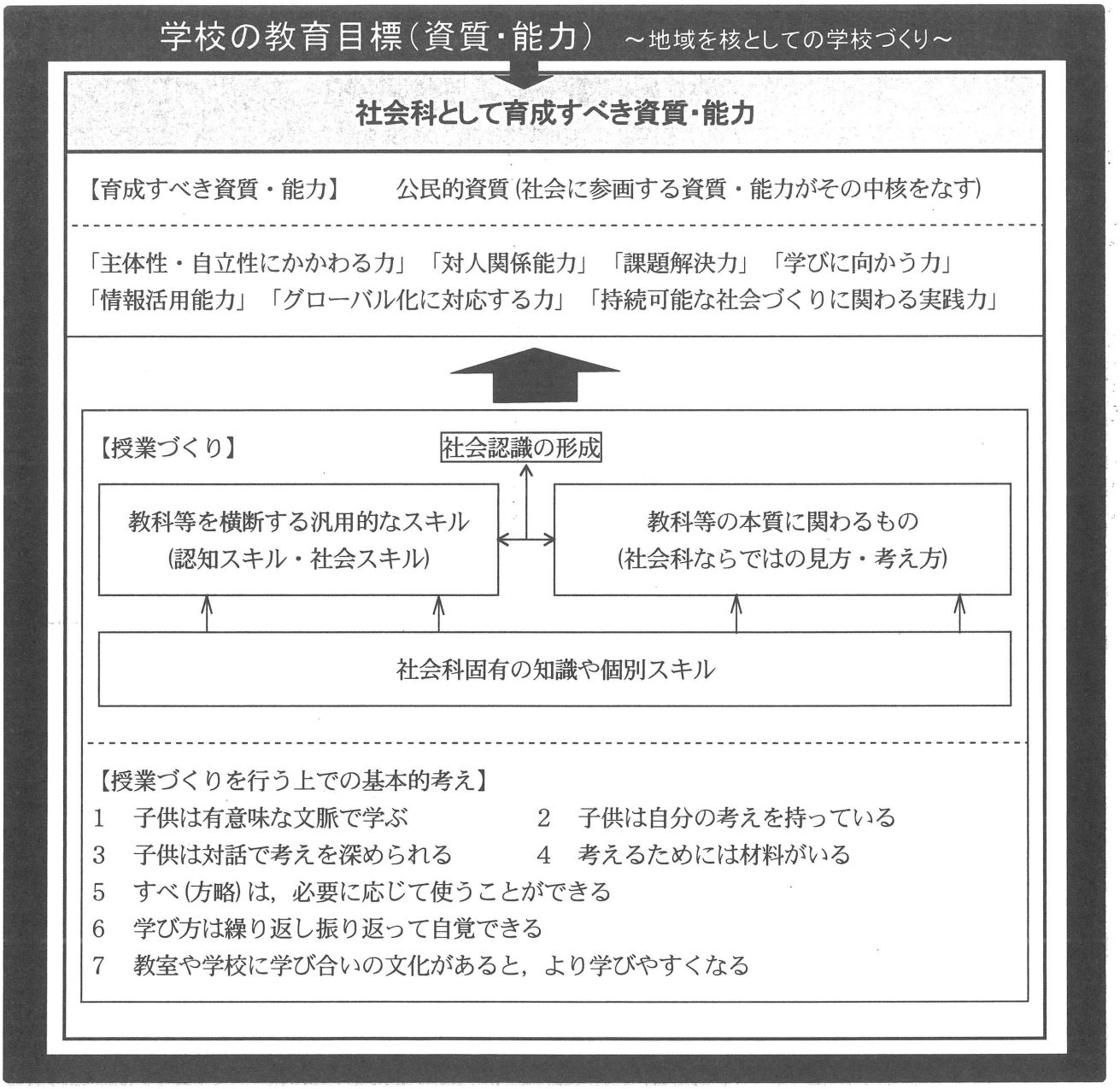
社会に参画する資質・能力は，公民的資質の中核をなすものであり，社会科の授業を通して高めていくことが重要である。また，それを高めていくためには，「論点整理」でも述べられているように「主体性・自立性にかかわる力」「対人関係能力」「課題解決力」「学びに向かう力」「情報活用能力」「グローバル化に対応する力」「持続可能な社会づくりに関わる実践力」等の力を付けていくこ

とが求められるだろう。

③　資質・能力と内容の関係性について

国立教育政策研究所から出された教育課程の編成に関する基礎的研究報告書7「資質や能力の包括的育成に向けた教育課程の基準の原理」の第５章では，「資質・能力が教科等の内容に関する質の高い知識やスキルを含みつつ，それをいかに使うかというメタ認知や社会的なスキル，態度まで融合したものとして構想されている可能性を確認した。」とあり，また，「資質・能力が目標として育成可能であるとともに，教科等の内容理解に資質・能力が手段として活用できる可能性も示唆された。」とある。

資質・能力の育成を目指す中で各教科で扱ってきた内容との関係性の整理については，今後の検討を待たなければならない。いずれにしても，その校の学校の教育目標でどんな資質・能力を育成するのかという「学校づくり」が基盤にあって，そのもとでの各教科等の目標・内容という筋道に立つことが大切である。授業の中で内容を扱いながら資質・能力を育てていくといったこれまで香社研が取り組んできたこととつなぎ，社会科として育成すべき資質・能力を次のようにまとめた。



(2)「社会科の魅力を創る教育」について

今，全国的に社会科の大きな課題になっていることは，社会科学習が「知識」の重視に偏り，学ぶ喜びを感じにくくなってきていること，また，真の「理解」が伴っていないため，学ぶ価値が実感できにくくなっていることなどが挙げられる。

一部の社会科を専門とする教員による授業では，教科書教材を基本にしながらも地域教材の活用を図り，内容を再構成して，子どもが主体的に学ぶ工夫を取り入れながら授業づくりを行っているのに対して，社会を専門としない教師が行う授業の中には，「教科書を読み内容をノートに書く学習」「教科書と教科書指導書により解説しながら板書する学習」「教科書と『社会科の基礎』（ワーク）による学習」など画一的で受け身的な学習が行われている場合も多く見られる。

このような現状から考えると，社会科の授業を子どもたちの主体的な学習，意欲を深めていく学習，そして探究することに喜びをもつ学習にする必要がある。このような授業づくりを目指していくところに，現在課題となっているいじめや学習意欲の低下等の課題解決の糸口が見えてくると考えている。

「社会科の魅力」については，社会科発足当初の初期社会科の目標である，「社会の様々な問題について，自主的自律的に思考判断する能力を育てる」ことにより，その経緯をたどり社会科を見つめ直すことで，本来あるべき社会科授業の在り方が見えてくる。

香社研では，次に挙げる３つの視点を社会科の魅力として捉え，研究を深めていきたい。

視点1　目指す子ども像とつかませたい社会認識の明確化
視点2　社会参画を意識した指導計画の作成
視点3　子どもが実感的な問題意識・課題意識をもち，主体的に意欲をもって課題を解決する学習の在り方

視点1については，社会科学習を通してどのような子どもを育てたいのか，目指す子ども像を各学校で明確にしておくことが必要である。このことが他の教科とちがう大きな魅力となっている。社会科が戦後一貫して求めてきたのは，「平和で民主的な国家及び社会の形成者」である。このことを念頭に置き，各校なりの子ども像を描くことが大切である。また，そのような子どもを育てるためには，1つ1つの単元を通してどのような社会認識をつかませたいのかを明確にしておく必要がある。それにより，教材の扱いや単元の組み立て方も大きく異なってくる。

視点2については，教師自らが指導計画を作成していくことが求められている。また，それは，1つの単元だけではなく，多くの教師の協同によって全ての単元において，よりよい社会の形成への参画を意識した指導計画をつくっていくことが重要である。かつての教師集団においては，「○○プラン」として競って自分たちの理想とする指導計画の作成が行われていた。そこに社会科教師としての魅力を感じていたのである。今一度，現場教師がチームを組んで指導計画を作成する教師力をもてるようにしたい。

視点3については，冒頭でも述べたように，単元や１時間の授業の中で，いかに子どもたちが意欲をもち，主体的に取り組んでいけるような学習にしていくかということである。主体的に学んでいくことは，教師の一方的な教授とは異なり，自らが思考して知識や概念を獲得していくことに他ならない。教科の本質も大切にしつつ，教科を横断するような汎用的スキル（認知スキルや社会スキル）も念頭に置き，研究を深めていきたい。

香社研では，このような３視点を通して，これまでの社会科研究を振り返り，香社研の伝統と研究の積み上げの上に，社会科の魅力を充実させることにより，自ら社会に参画する資質・能力を高めていき，全国大会においてその成果を発信していきたい。

Ⅱ　研究主題探究の方策

１　「自ら社会に参画する資質・能力を高めること」についての方策

(1)　「社会参画」の意義

平成１８年に，５９年ぶりに教育基本法が改正され，教育の目標に「公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養うこと」が新たに盛り込まれた。それを受けて，平成１９年の学校教育法の改正により，義務教育の目標にも同様なことが規定された。

「社会参画」という言葉が一人歩きをしている感があるが，その前提としての「公共の精神」がまず大切にされなければならない。「公共の精神」とは，社会全体の利益のために尽くす精神，まさに国や社会の問題を自分自身の問題として考え，社会の他の人々と一緒に協力し合いながら社会を形成していく精神のことを指す。社会参画という前に公共の精神や公正な判断力，あるいは社会に向ける関心などを教育活動全体で育むことが大切である。社会参画はその先にあるものである。

これまでの日本人は，ややもすると国や国家はだれかがつくってくれるものという意識が強かったのではないだろうか。これからは，国や社会の問題を自分自身の問題として考え，そのために積極的に行動していくことが大切である。自分から積極的に社会の形成にかかわり，よりよい社会をつくっていくんだという自覚をもつこと，それがいわゆる社会参画である。

(2)　自ら社会に参画する資質・能力を高めることについて

自ら社会に参画する資質・能力を高めるためには，授業において次のことを考えながら授業を行うことが大切になってくる。

①　社会的事象の確かな理解

よりよい社会を目指して取り組む人々を「参画するモデル」として取り上げる。実社会に生きる人々がどんな目的で，どんな願いをもって，どんな働きをしたのかなど，社会的事象の意味を理解することが大切である。

②　汎用的スキルの育成

社会は，様々な働きが相互に関係し合って，課題を解決してきている。そのため，「多面的に考える」「人ごとではなく将来にわたって自分の関わり方を考える」「バランス感覚をもって判断する」「意見交換ができる」といった能力を育む必要がある。

③　社会的な見方や考え方から自分の在り方を考える

社会的事象の意味をとらえる見方，考え方を養うことによって，自分の社会に対する働きかけを見つめ直し，自分の在り方について考えることができる。協働への糸口を見つけ，かかわろうとすることが大切である。

小学校における授業では，「あなたにできることは」と拙速に答えを求めるのではなく，その前提としての社会的事象の確かな理解や社会に出たときに必要とされる社会的なスキルの育成が重要になってくる。また，社会的事象の確かな理解を通して見方・考え方をしっかりつかみ，そこから価値判断・意思決定し，自分たちのできることの効果や実現性を吟味し合う学習が，参画への意欲や態度の形成につながっていくのである。

(3) 自ら社会へ参画する資質・能力を高める授業づくりについて

「社会参画による資質・能力の育成」につなぐ学習は，平成26年度までの実践では，まとめの段階で表現したものをもとに，「発信」するという方策が多く見られた。このことについて，平成26年度「東京大会」の成果を大切に生かし，研究を深めることが必要である。教科調査官の澤井陽介氏が，「社会科教育26年8月号（明治図書）」で述べていることをまとめると次のようになる。

澤井先生のまとめと課題となることについて

東京大会の事例	東京大会主張のまとめ	課題とすること
■～できることを考える。 ■～の在り方を考える。 ■～関わっていくかを考える。 ■自分ができることを考える ■会議を開き，提案する。 など	①社会的事象の意味を人々の「思い」「願い」「努力」などと関連付けて認識すること。 ②社会的事象の意義，よさや課題，問題点を認識すること。 ③社会的事象を「変化」「継承」「発展」などと時間的経過で認識すること。 ④「役割」「自分たちとのかかわり」「～にとっての意味」などと，大きな枠組みから捉え直して，社会的な意味を認識すること。	社会的事象の意味を，どのように具体的に理解して社会認識を深めれば，子どもは未来を社会を，日本を，そして自分との関わりを考えるようになるのか。 小学校で何をどこまで求めるのか。今後も考えていく必要がある。

そこで，今年度は以上のような考えや実践を踏まえ，「発信」による「社会参画につなぐ活動」を「発信・返信の探究活動」「社会参加・社会参画」などとし，具体的な実践を通して，公民的資質の基礎づくりを目指していきたい。

社会的な在り方を社会科学習で学び，それを現実社会につなぐことが，社会への参画への意識の高まりとともに求められている。社会科学習では，これまで述べてきたように社会への参画の活動そのものを含むものではないが，参画への意欲を高めるために現実の社会とつなぐことは重要なことである。ここでは，社会参画につながる授業づくりの一例を示しておく。

- ○　地域の抱える問題の解決方法を話し合う。
- ○　地域のよりよい発展のための方策について話し合う。
- ○　学んだことをもとによりよい社会づくりに向けて自分たちでできることを話し合う。
- ○　すばらしい業績を残した人を参画モデルに自分たちの在り方を考える。
- ○　過去の人や集団，組織の問題解決や知恵に学ぶ。
- ○　他者の立場に立ったり，立場を変えたりして物事を関係的に捉える。
- ○　国家の一員として，国際社会における日本の在り方を考える。　等

これ以外にも単元によって様々な活動を工夫することが考えられる。大切なことは，小学校社会科の授業を通して子どもたちに参画への意欲を高めることである。

こうした積み重ねが，将来，公民的資質の基礎を培うことにつながり，「望ましい社会を創造する能力」となってくると考えられる。

2　「社会科の魅力を創る」ことについての方策

社会科の魅力のうち，香社研では次に挙げる３つの視点を大切にしたいと考えているが，次期学習指導要領の改訂作業に伴い，「再構成の学習論」に資質・能力の育成を考慮し，改善を加えることになる。

視点1　目指す子ども像とつかませたい社会認識の明確化 **視点2**　社会参画を意識した指導計画の作成 **視点3**　子どもが実感的な問題意識・課題意識をもち，主体的に意欲をもって課題を解決する学習の在り方

ここでは，視点ごとに，これまでの香社研の研究とつないで現時点における研究の方向性について説明を行いたい。

(1)　社会科の魅力〈視点1について〉

視点1　目指す子ども像とつかませたい社会認識の明確化

ア　「社会認識」の考え方

社会認識をつかむということは「社会現象」について事象間のつながりを発見し，その間に横たわる論理を自らが構成していくことである。社会の具体的な現象を自ら分析し，その過程を通して社会についての認識を確かなものにしていく。この認識は単に事実の把握・理解ということではなく，目指す子ども像に結びつくものである。社会に参画する資質・能力を高めるためには，この単元ではどのような認識をつかませたいのか，教師が明確な意図をもつことが必要になってくる。

また，この認識は，教師による単なる教授によってはつかむことはできない。子どもたち自らが主体的に学ぶ中でこそ身に付くものである。それは，主体の中に矛盾や対立を意識化することから始まる。この矛盾や対立の意識を出発点として子どもの力による問題解決的な学習を通して，理解が深まっていく。それは知識の単なる集積ではなく，新しい問題や事態を切り開いていく汎用的なスキルをつくることでもある。教師は，「何を知っているか」から「何ができるようになったか」を求めていく必要がある。

イ　「社会認識をひらく」2つの意味

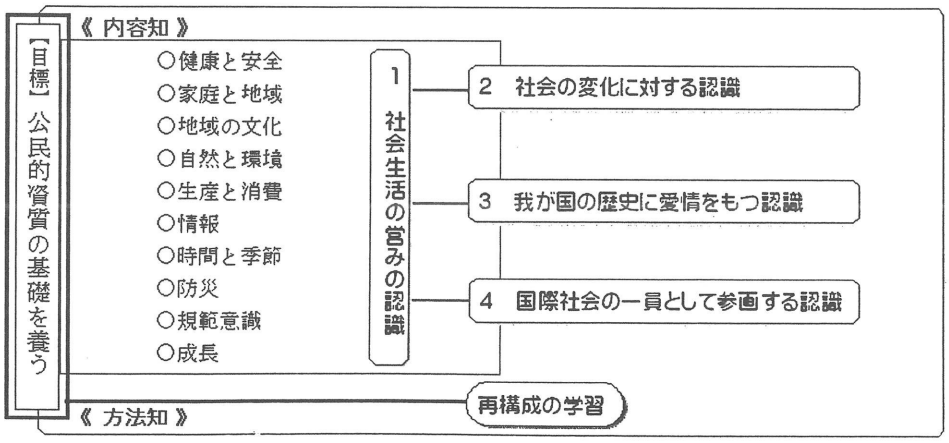
社会認識は，内容知と方法知に分けることができる。内容知は，科学知（社会諸科学，自然諸科学，人文諸科学）と人間知から成り立っている。このように，社会認識を社会諸科学だけでなく，他の諸科学に社会認識をひらくこと，これが一つの意味である。

もう一つは，社会認識に止まらず，よりよい社会の形成に参画（社会参画）する資質・能力に「つなぐ」ことについての「ひらく」である。

社会科の目標である公民的資質の基礎を養うために，２つの社会認識をどのようにひらいていくのか，「社会認識カリキュラム」と「社会参画につなぐカリキュラム」の２つから迫っていきたい。

ウ　社会科の目標にせまる社会認識の全体像

一口に社会認識といってもその捉え方は人によって様々であり，そのままでは授業づくりに生かしていくことが難しい。そこには，いくつかの切り口（視点）が必要である。香社研では，公民的資質を育てるという観点から，次の４つの視点を置き，単元ごとの細かな内容を置くこととした。教材研究の段階からどの視点・どの内容から迫っていくかを明確に意識し，授業づくりを行っていくことが大切になる。



生活科・社会科の目標と社会認識の関連

生活科の目標	社会科の目標	社会認識	
自立への基礎を培う	公民的資質の育成	〈内容知（科学知・人間知）〉	
(1) ・自分と身近な人々及び地域の様々な場所，公共物などとのかかわりに関心をもつ ・地域のよさに気付き，愛着もつ ・集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え，安全で適切な行動ができる	社会生活についての理解	①　人びとが相互に様々なかかわりをもって生活を営みながら自らが社会生活に適応し，地域社会や国家の発展に貢献する。	視点１ 社会生活の営みの認識 ◎　私たちは，人や物との関わりの中で，くらし（生活）を営み，願いをかなえる努力をすること
	我が国の国土と歴史についての理解と愛情	②　知識基盤社会やグローバル化が進む時代の中で，国際社会に主体的に生き，持続可能な社会の実現を目指す	視点２ 社会の変化に対応する認識 ◎　社会の変化に目を向け，広い視野に立って自分の考えをもつ
		③　土地と生活のかかわりの変化にともなう時代の特色を風土の中に築いた先人の働きを見つめ，伝統や文化に愛情をもち，受け継いでいく	視点３ 我が国の歴史に愛情をもつ認識 ◎　先人の働きに人間としての生き方や在り方を求める
(3) ・身近な人々，社会及び自然とのかかわりを深める ・自分のよさや可能性に気付き，意欲と自信をもって生活する	公民的な内容	④　平和で民主的な国家・社会の形成者として市民・国民にふさわしく国際社会に主体的に生き，公共的な事柄に自ら参画していく	視点４ 国際社会の一員として参画する認識 ◎　国際社会の一員としての自覚をもち，社会事象のもつ意味を考える
		〈方法知〉	
		再構成の学習を「意欲」「思考操作」「評価」から組織し，主体的に学ぶ力を育成する。	再構成の学習を組織し，主体的な学習を進める中で，「思考と表現」「指導と評価」の統一を図り，言語活動の充実を目指す

社会認識の視点と内容（試案）

視　点	事項(指導要領の内容から)	視点の内容
視点1 社会生活の営みの認識 ◎　私たちは，人や物との関わりの中で，くらしを営み，願いをかなえる努力をすること	・　人々の健康で安全な生活を守るために，関係の諸機関が連携して政治が行われている ・　地域では，人々にとって健康で安全な環境がある ・　地域の人々の生活が，変化・発展していくため先人の働きがある ・　地域社会に対する誇りと愛情をもつ	①　関係の諸機関が連携して，人々の健康で安全な生活を支えている ②　人々の生活が変化し発展する中で，人々の協力や先人の働きがある ③　私たちは地域とかかわり，誇りと愛情をもつことが大切である
視点2 社会の変化に対応する認識 ◎　社会の変化に目を向け，広い視野に立って自分の考えをもつこと	・　身のまわりの生活は，地域・国土と環境とが互いに絡み合っている ・　自分たちの生活は，他地域や外国とのかかわりをもちながら営まれており，人と物の流れを通して見ることが大切である ・　地域社会の社会的事象の特色や相互の関連について考える ・　我が国の国土の様子，国土の環境と国民生活との関連について考える ・　我が国の産業の様子，産業と国民生活との関連，情報化の進展の意味について考える ・　環境の保全や自然災害の防止の重要性について関心を深め，国土に対する愛情をもつ ・　持続可能な社会の実現を目指す	①　社会の変化とともに，郷土や国土のよさを生かしながら，人々は生産や消費などで多くの課題に立ち向かって努力している ②　人々はよりよい社会を築くよう，環境・情報・福祉・防災などの課題に協力・連携して取り組んでいる ③　持続可能な社会を目指す取り組みを進めることが大切である ④　社会事象は相互に関連しており，日常の動きに目を向け，その事象のもつ意味を考えるよう努める
視点3 我が国の歴史に愛情をもつ認識 ◎　先人の働きに人間としての生き方や在り方を求めること	・　地域の人々の生活の変化や地域の発展は，先人の働きによるものであり，人々の願いでもある ・　国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産の理解を深める ・　我が国の歴史や伝統を大切にし，国を愛する心をもつ	①　今の生活を支えているのが先人の働きであり，そこには人々の知恵や願いがある ②　郷土や国の発展に尽くした先人の業績や文化遺産を大切にし，受け継ぐ ③　我が国の時代の特色をもとに歴史や伝統・文化に誇りをもつ
視点4 国際社会の一員として参画する認識 ◎　国際社会の一員としての自覚をもち，社会事象のもつ意味を考えること	・　身の回りや地域の具体的な事例を調べ，感動したり，共感したりして，日本人としての自覚をもつ ・　地域社会の一員として社会事象の意味をより広い視野から考え政治の働きに関心をもつ ・　平和を願う日本人として世界の国々の人と共に生き，互いの文化を尊重し，国際社会における我が国の役割を自覚する ・　公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力をもつ	①　人々は，社会の出来事に共感したり，感謝したり，課題をもったりして社会を発展させようと努力している ②　国際社会における我が国の役割の現状から地域社会の一員としての自覚をもつ ③　平和を願う日本人として，世界の人々と共に生きることの大切さを自覚する ④　公共的な事象に，自ら参画し，よりよい社会を形成しようとする

(2) 社会科の魅力（視点2について）

視点2　社会参画を意識した指導計画の作成

【社会科の目標】

公民的な資質の育成

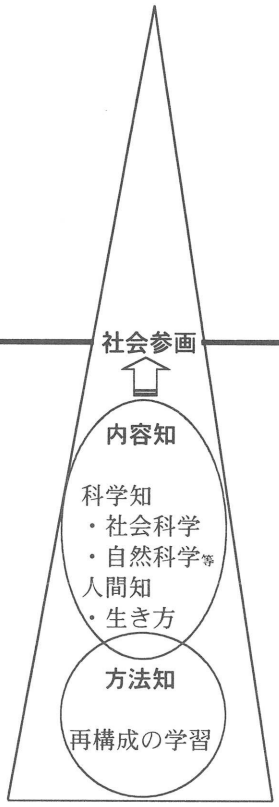
- 社会生活についての理解
- 我が国の国土と歴史についての理解と愛情

【社会認識の視点と内容】

内容知（科学知・人間知）	視点	内容
①人びとが相互に様々なかかわりをもって生活を営みながら自らが社会生活に適応し，地域社会や国家の発展に貢献する	**①社会生活の営みの認識**	①　関係の諸機関が連携して，人々の健康で安全な生活を・・・②③
②　知識基盤社会やグローバル化が進む時代の中で，国際社会に主体的に生き，持続可能な社会の実現を目指す	**②社会の変化に対応する認識**	①　社会の変化とともに，郷土や国土のよさを生かしながら・・・②③④
③　土地と生活のかかわりの変化にともなう時代の特色を風土の中に築いた先人の働きを見つめ，伝統や文化に愛情をもち，受け継いでいく	**③我が国の歴史に愛情をもつ認識**	①　今の生活を支えているのが先人の働きであり，そこには・・・②③
④　平和で民主的な国家・社会の形成者として市民・国民にふさわしく国際社会に主体的に生き，公共的な事柄に自ら参画していく	**④国際社会の一員として参画する認識**	④人々は，社会の出来事に共感したり，感謝したり，課題をもったりして・・・②③④

〈方法知〉	**〈社会参画〉**
汎用的スキルの育成 (認知スキル・社会スキル) ○再構成の学習 意欲づくり 思考と表現の一体化	社会に参画する資質や能力の基礎

【社会参画を意識した研究内容】



【社会科指導計画】

① 資質・能力，内容，教材の構造

内容・教材
・指導要領の内容
・教科書分析

社会に参画する資質・能力とそれを支える力の想定

② 単元観・目標・評価規準

・「資質・能力，内容，教材の構造」をふまえた目標，評価規準の設定
・地域教材の活用を想定した単元観の構想
・社会参画につなぐ授業案の立案

③ 単元構成

指導計画と評価計画の一体化

問題をつくり・見通しをもつ
【主体性の尊重】

調べ・考え・表現・まとめる
【再構成の学習】

つなぐ
【発信・参加・参画】
社会参画へつなぐ方策

目標

④ 学習の構造

小単元を中心的な学習として

教材をつなぐ
教材と思考操作－表現
汎用的なスキルの育成
(認知スキル・社会スキル)

⑤ 本時の学習指導

思考と表現の一体化
指導と評価の一体化
評価基準（ルーブリック）の活用
評価観の転換
(何を知っているか→何ができるようになったか)

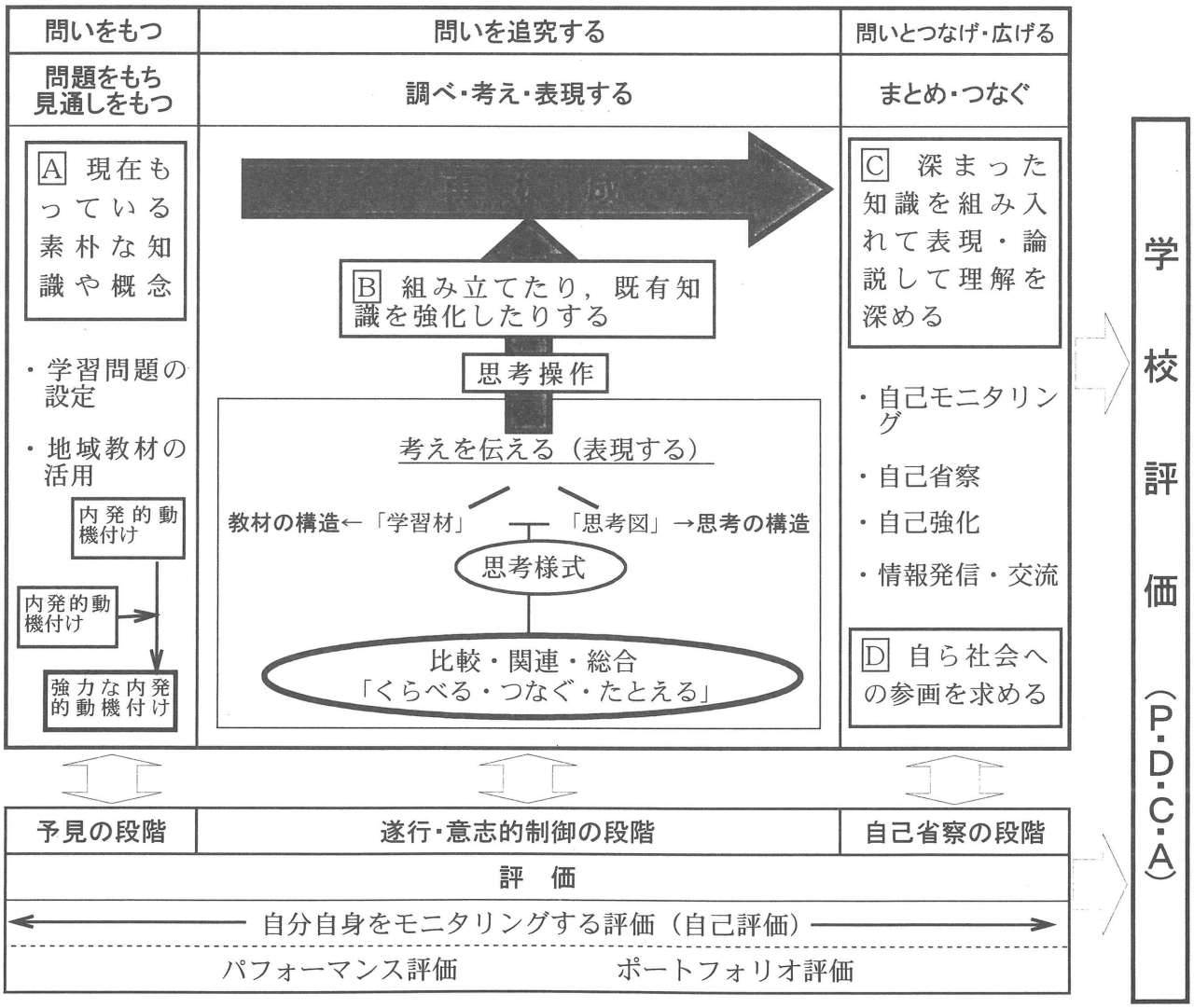
ア　社会科指導計画づくり

社会科指導計画を①「内容・教材の構造」②「単元観・目標・指導計画」③単元構成④「学習の構造」⑤「本時の学習指導」の５つの内容で構成することにした。前ページの図を見ていただくと分かるように，社会認識の視点と内容を踏まえ，社会参画を意識した計画となっている。

まず，①「内容・教材の構造」では，教科書分析と地域教材の開発を行い，その教材が，どのような知識の構造になるのかを図に位置付ける。基底となる事項，関連する事項，発展的な事項に分類・整理を行い，どのような単元づくりが可能か検討する材料とする。この段階で，社会に参画する資質・能力，さらにはそれを支えるどのような力を育てていけばよいのか明確にしておくことが大切になる。②「単元観・目標・指導計画」においては，先に述べた社会認識の視点(本部提案p8)を念頭に置きながら，単元観や本単元おける目標を明確化していく。そして，③単元構成においては，社会への参画を意識した授業の組み立て(本部提案p5)を考えていく。しかし，教師の意図性だけで単元化を図るのではなく，子どもの主体性を生かしながら単元づくりを行っていくことが重要になってくる。④「学習の構造」においては，子どもの思考場面を想定し，どのような学習材を活用して子どもに思考させていくのかを考えていく。思考を通して概念を獲得する場を教師が想定し，支援を考える場としている。認知スキルや社会スキルの両面から汎用的なスキルが身に付くよう考えることが重要である。そして，最後に⑤「本時の学習指導」を計画していくのである。本時の学習指導については，視点３のところで詳しく述べたい。

香社研では，今まで述べてきた社会科の魅力に立って，『再構成の学習』により自ら社会へ参画する資質・能力を高める教育を創るカリキュラム（指導計画）を求めていきたい。

「再構成の学習」の過程



イ 「再構成の学習」論について

次に，単元の大きな流れについてみていきたい。学習は，３つの段階をサイクル活動として展開する。３つの段階とは，「予見」「遂行・意思的制御」「自己省察」の段階である。大まかに言えば，「予見」は学習場面を設定し，見通しをもって取り組む計画を立てる段階，「遂行・意思的制御」は思考と表現の統一により再構成を図ることによって思考力を育てる段階，「自己省察」は，社会への参画につないだり，総括的な評価を入れた自己評価をしたりする段階と言える。この３つのサイクルが自己調整の過程であり，このサイクルを通して「自己効力感」を育てていくことが主体的な学びへとつながっていく。

具体的に説明すると，まず，予見の段階では，学習場面を設定し，取り組みの計画を立てる。自己効力感をもって目標設定・課題設定し，方略プランニングと合わせて計画する。遂行・意思的制御，自己省察の段階においては，自己モニタリングをしながら自己評価，自己強化をするという自己調整を図る学習を目指している。

思考力は，図のように，A「現在もっている素朴な知識や概念」を，B「組み立てたり，既存知識を強化したり」して，C「深まった知識を組み入れて表現・論説して理解を深める」よう再構成することによって育てられる。その過程の活動が，思考様式の活動であり，自分自身をモニタリングによって自己評価しながらの活動になる。このような力は教科を越える汎用的なスキルとなり得るものであり，大切にしていく必要がある。

D「自ら社会への参画を求めること」とは，社会的な見方・考え方・在り方の学びを現実の社会につなぎ，一人一人が，社会の一員としての自覚をもち，参画につながるような意識をもったり，単元によっては，自らの活動や態度で示していく姿を求めているものである。

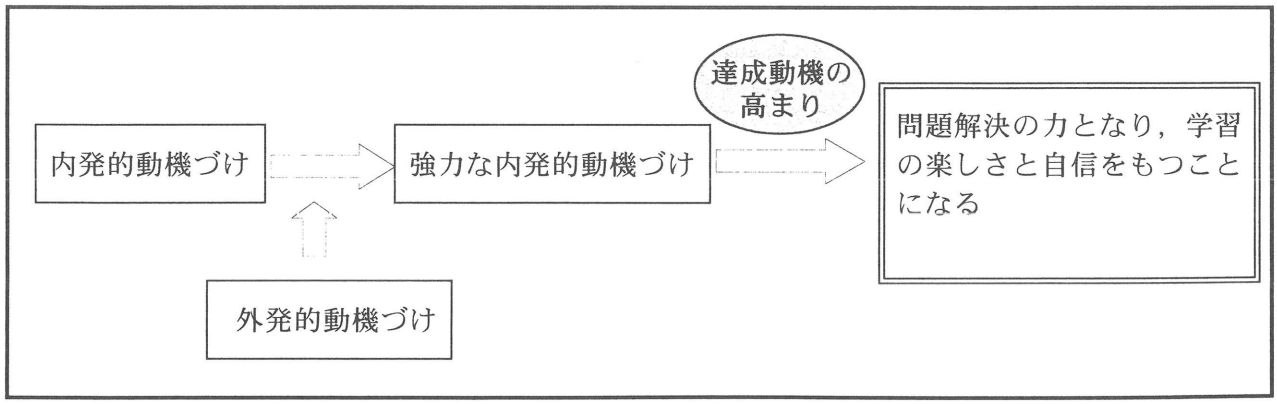
(3) 社会科の魅力〈視点3について〉

視点3　子どもが実感的な問題意識・課題意識をもち，主体的に意欲をもって課題を解決する学習の在り方

子どもが実感的な問題意識や課題意識をもち，主体的に意欲をもって課題を解決する学習の喜びややる気をもつことは，授業づくりの上でとても重要なことである。「育成すべき資質・能力　―論点整理―」の中においても「主体性・自律性にかかわる力」「課題解決力」「学びに向かう力」として大切にされているところであり，社会参画にもつながる力である。このことを達成するために，次の４つの点を大切にしたい。

ア　主体的な意欲をもって取り組むための方策

主体的な意欲をもって取り組むことは，実感的な問題意識・課題意識をもつこと，課題を解決する学習の喜びと自信をもつことなど，学習過程全体に機能する。この主体的な意欲をもつ大きな力は，「内発的動機づけ」と「外発的動機づけ」によるもので，この２つの動機づけの関係は，次の図に示すとおりである。



問題解決に立ち向かうため，自分のもっている経験や知識をもとにした「内発的動機づけ」を外的な情報や新たな体験による「外発的動機づけ」によって，一層強力にしていくことが，主体的に意欲をもって取り組む源になる。このことを，もう少し詳しく述べておく。

子どもは，対象に思いや願いをもつことができれば，自ずと意欲が高まり，自ら進んで活動したり，活動そのものに喜びを感じたりして，主体的にねばり強く活動する。それは，何かやりがいのあることを成し遂げたいという欲求，達成動機があるからである。「動機づけ」とは，何らかの行動を引き起こし，ある方向に向け，それを持続させる過程と定義されている。また，「達成動機」とは，活動の結果，成功や失敗として表れるような場面において，できるだけ高いレベルでものごとを成し遂げようとする動機で，いわゆる「やる気」である。そして，達成動機が高い子どもは失敗を恐れず成功を求め，自分の能力に適した少し難しい課題に挑戦する。一方，達成動機の低い子どもは，失敗を避けようとする気持ちが高く，確実に成功する課題か，ほとんど成功の見込みがない課題を選ぶと言われている。つまり，授業づくりにおいては，この達成動機を大切にしたい。授業づくりに置き換えると，授業のゴール像が描け，単元を通した見通しをもつことと言い換えることができる。

イ　実感的な問題意識や課題意識をもつための方策

実感的な問題意識をもつことを，学習過程の①問いをもつ，②問いを追究する，③問いとつなげ・広げるといったそれぞれの段階に分けて考えることができる。

①　問いをもつ段階におけるポイント

学習に対する意欲は，問いをもつ段階においても，子ども自らが生み出すことが大切である。この段階では，社会事象に対して多様な興味や関心を示したり，問題追究への意欲を育てたりすることが中心となる。

そこで，どのような場合に，子どもが知的好奇心を示すのかをよく吟味しなければならない。知的好奇心を生み出す背景には，豊かな体験やそれまでの学習経験や外部資料が存在する。そのため，体験の場を設定したり自分の生活を掘り起こしたり，他の情報によったりして，目の前の社会事象と体験や既習経験とをつないで，その中に矛盾や共通点を見いだせるように援助することが必要である。

②　問いを追究していく段階におけるポイント

最初にもった問いを，いかにして深め，追究していけるかがこの段階の課題である。問いが明らかになると子どもは意欲を示さなくなる。そのため，教師は問いをよく吟味し，深まりのある価値ある問いになるように導くとともに，表現活動を中心に据えながら，学び方を援助したり，相互交流の場を工夫したりしていくことが大切になる。

この問いを追究する段階では，実感的な課題意識をもって課題を解決していくために，２つの過程を通る。１つは実感的な課題を解決していくために必要な基礎・基本の事項について教科書で学んでいく習得の過程である。もう一つは，習得した内容からより深まった課題をつくり，解決していく過程である。これは，活用の過程といえるものである。これまでの研究とつないで考えると，習得の過程においては，教科書教材の活用を，活用の過程においては，地域教材の活用を図ったより焦点を絞った課題に子どもたちが取り組んでいくことになる。こうすることで，子どもの追究意識が深まっていく。

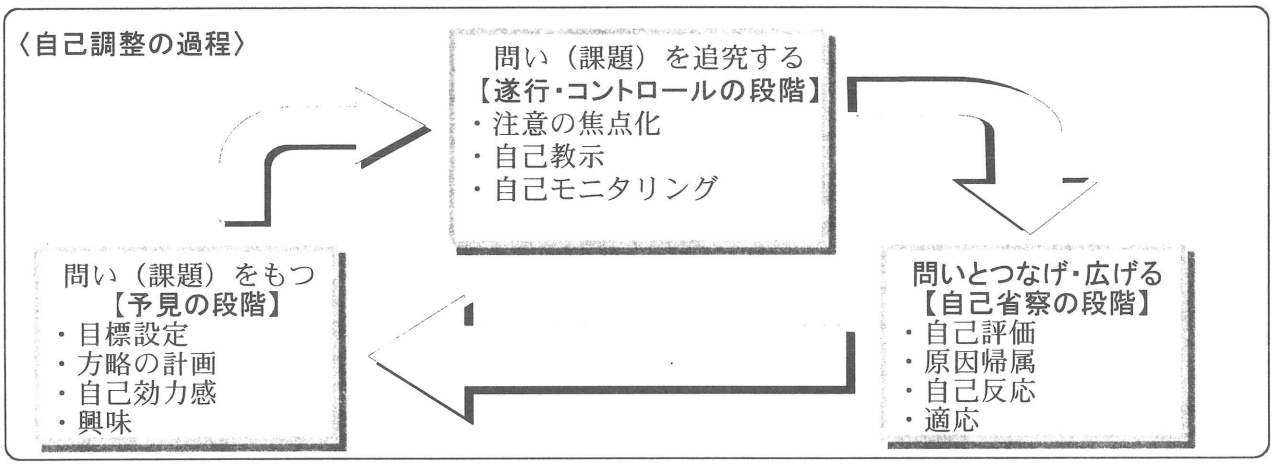
③　問いとつなげ・広げる段階におけるポイント

意欲が継続していくことで，問いはさらに深まり広がっていく。その場合，自分の伸びを認め，自信をもつことでの意欲づくりが大切である。生きて働く力ということが言われるが，学んだ事柄をもとに社会の一員としての自覚を生み出し，参画へつながる課題意識をもつことが大切である。社会への参画を考えると，この段階をどう設定するのかが（ゴールをどう設定するかが），単元づくりの上で非常に重要になってくる。

ウ　課題を解決する学習の喜びと自信をもつための方策

子ども達が知識や技能を学び，受容していくことだけでなく，子ども自らの課題に基づき，知識を再構成し，生きて働く知識や技能として課題を解決する過程で，自己調整しながら自分の伸びを喜び，

自信をもつよう努力したことを自己評価する学習を香社研では目指している。



「自己調整」とは，目標到達を目指し，思考や感情，方略行動を自らが引き起こし，自己の内面を組織的，計画的に機能させていくことを指している。そして，自己調整は，図に示すとおり，「予見の段階」「遂行・コントロールの段階」「自己省察の段階」の３段階の循環的プロセスにより行われる。この過程は，香社研の再構成の学習の基本的な枠組みとなる。この自己調整の過程こそが，自ら参画を求める子どもをつくっていくとも言える。

学習評価の研究として捉えると，評価は学習過程における「自己調整」を図る過程としてとらえることができる。すなわち，結果主義の評価ではなく，学習の過程における「過程主義」に立つ評価である。自己評価により，自分で自分の学習をモニタリングしながら学んでいくことで，自ら学ぶ資質や能力も高まってくる。

エ　思考力の育成に向けた方策

かつて，社会認識を深める学習論が唱えられた頃には，思考力の育成に向けて「思考操作」の研究が注目された。この当時から社会認識を深めるための思考力の育成が重視されていたことが分かる。その後，平成20年度の学習指導要領では，「思考と表現の一体化」とそれに伴う「言語活動の充実」が課題となってきた。子ども主体の学習とは，子ども自らが思考し，知識や概念を獲得していく学習に他ならない。

思考力を育てるとは，物事を構造的に把握する態度を育てることである。構造的な把握を行うために，種類や用途，場所，時間経過などで分析したり，類別したり，関係付けたり，条件を変えたりしながら，思考そのものが特色としてまとまっていなければならない。思考力を育てることは，知識を構造化している過程としてとらえることが大切である。

つまり，思考力を育てるために大切なのは，正しい知識の理解にあたって，過ちやつまずき，意識のずれを自分で発見して，それを修正していく過程である。この自己評価を伴う活動は，思考の構造の中に確実に組み込んで，より正しく深い理解を進めていくことになる。これは「思考力の内面化」と呼ばれている。

思考の質的な発達を促すためには，活動がある点でせき止められるような状況に立たせることが必要である。このせき止められる状況は，社会的事象の矛盾や対立の場面であり，課題や学習問題の設定などの学習活動に生かしていくことで，学習に意欲的に取り組むようになり，飛躍的な発展にもつながってくる。子どもの思考の過程を図示すると次のページのようになる。

まず，教材の矛盾や対立から課題意識・探究意欲を高める。そして，反応を見極め，類型化し，学習の見通しを立てていくのである。そして，教材を子どもたちが操作できる学習材にして，集団と個のかかわりを考えながら思考操作を行う。比較・関連・総合しながら再構成することにより，自らの力で知識を概念化していくのである。

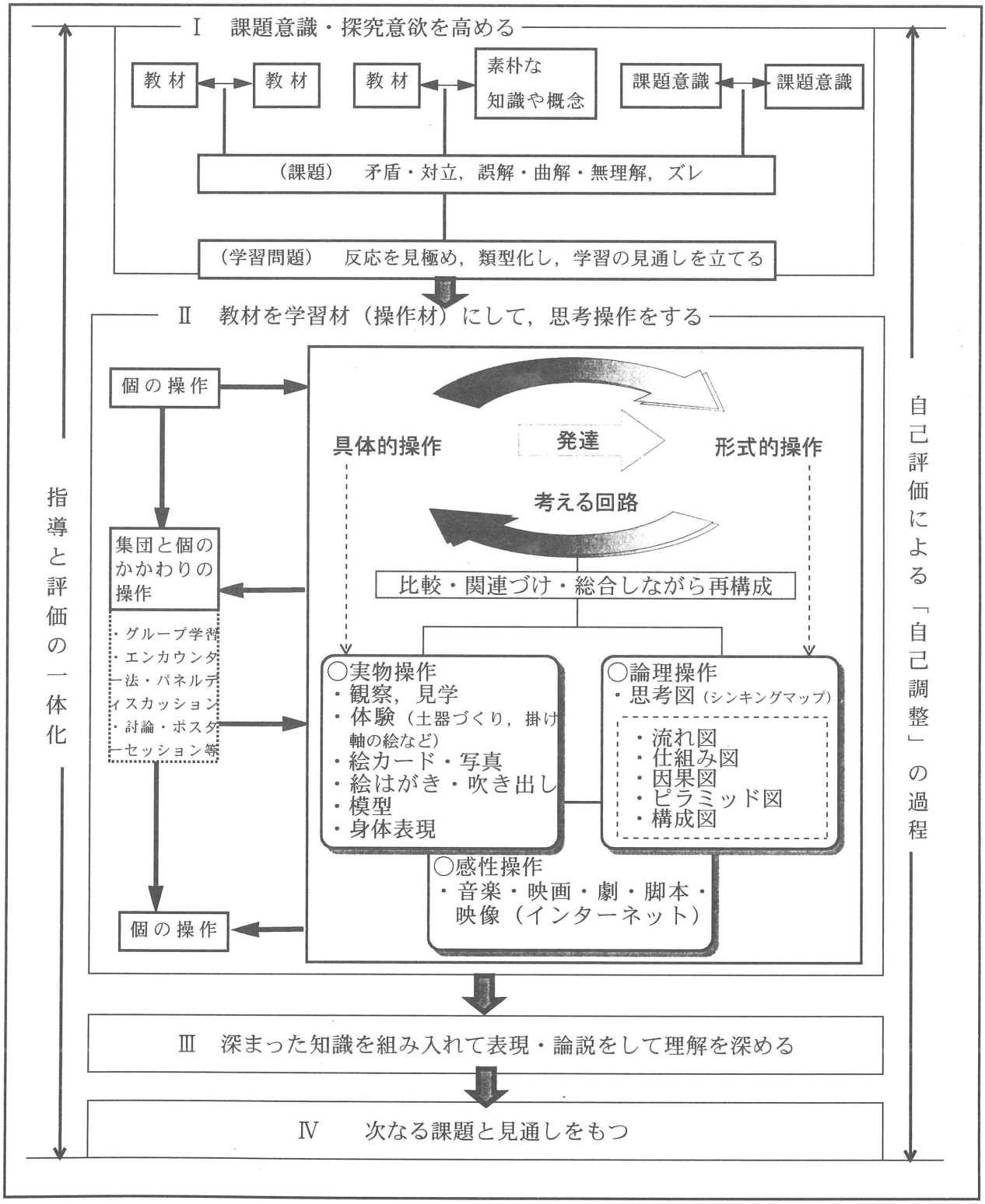
このように，主体的に自ら学びを求め，新しい知を創造していく過程こそ，これからの世の中を生

きていく子どもたちにとって必要なものである。

このような思考の過程は，教師にとっても見えにくいものである。そこで，学習材の開発に合わせて，「思考の構造」(子どもが思考する道筋)を明らかにすることに従来から取り組んできた。その中心としたのが，「思考図」(シンキングマップ)の活用である。このことによって，「思考と表現」の一体化による活動の充実を図ってきた。今後も積極的に活用していきたい。

下に，香社研が考える子どもの思考の過程について示しておく。

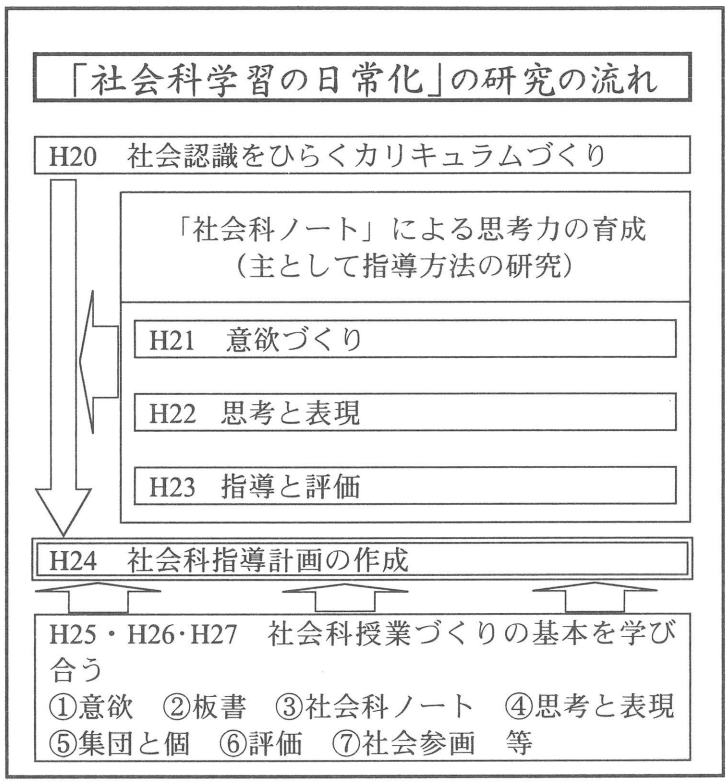
〈子どもの思考の過程〉



Ⅲ　研究主題探究の具体的研究内容・方法

1　社会科授業づくりの基本を学び合う研究内容と方法

(1) 研究の継続を踏まえて



社会科授業の現状を改善したいという願いから，右の図のように「社会科授業の日常化」に向けた研究主題を設定し，現在まで研究を進めてきた経緯がある。

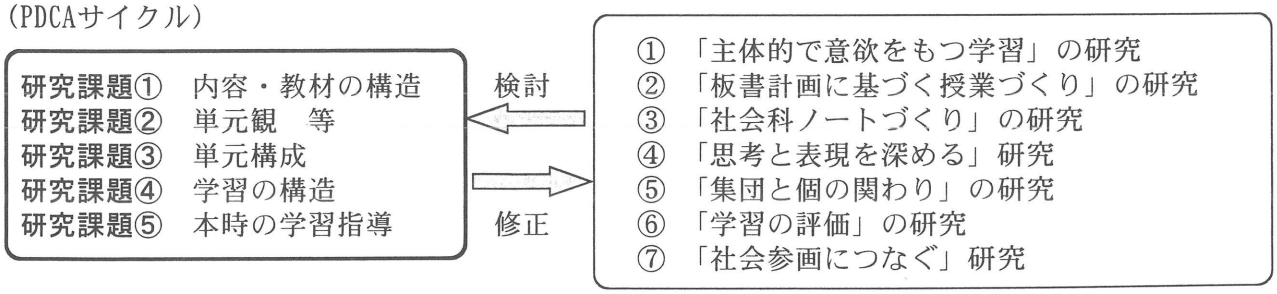
平成20年度まで続けられてきた社会科ノートの活用，教科書の活用の研究を軸にした社会認識をひらくカリキュラム研究を継続しつつ，平成21年度は「意欲づくり」，平成22年度は「思考と表現」，平成23年度は「指導と評価」の研究とテーマに迫る視点を変え，主として指導方法について研究し改善に努めてきた。夏季研・定例研等の確かな実践により，単時間における学習の内容や指導方法は充実してきた。しかし，学校現場の社会科授業が改善されたかというと，まだ難しい状況にある。

そこで，平成24年度は文部科学省教科調査官・澤井陽介先生のご指導を受け，平成20年度までの研究を生かして，すべての担任が連続的につながりのある社会科授業が展開できるよう「社会認識をひらく指導計画（単元計画）」を作成することにした。香川県下の各学校のカリキュラムの基軸になる「地域版のカリキュラム・指導計画」をつくり，それに自校の特色ある地域教材を取り入れ，授業の日常化に生かしてもらおうと取り組み，その一部を冊子にまとめることができた。すべての学級担任が取り組む社会科であるからこそ，伝統として研究を行ってきた「社会科の本質を求める授業」を目指していきたいと考える。そのために，今まで研究してきた「意欲づくり」「思考と表現」「指導と評価」といった視点を基盤にして，教科書や社会科ノートの活用を生かすことが大切である。そして社会に参画する資質や能力を高める教材については，教科書教材と地域教材を主とし，ネタ的なその場限りの教材は避け，子ども自らが本質を求めていけるような授業づくりを目指す方向で研究を進めていきたい。

(2) 授業づくりの基本を学び合う方策

平成28年度の全国大会に向け，平成26年度は，今までの成果を踏まえ「授業づくりの基本」を指導計画づくりの過程で学び合うことにより，指導計画を充実するとともに，課題についても明らかにすべく，研究を進めてきた。具体的には，下に挙げる７つの視点から研究を進めつつ，指導計画の中での「内容・教材の構造」「単元観」「単元構成」「学習の構造」「本時の学習指導」のどこに課題が存在するかを検討し，修正を行いたい。その際，「育成すべき資質・能力」についても考慮したい。

（PDCAサイクル）



[参考文献]

■「授業改革と学力評価」　北尾　倫彦　図書文化社　2008年

■「子どもの思考力」　滝沢　武久　岩波書店　1984年

■「考える・まとめる・表現する」　大庭・コティ・さち子　ＮＴＴ出版　2009年

■「学ぶ意欲の心理学」　市川　伸一　ＰＨＰ新書　2001年

■「学習心理学」　辰野　千寿　教育出版　1994年

■「社会科ノート」による思考力の育成　香社研　東洋館出版社　2008年

■「社会認識の系統からみた社会科新単元構成(試案)」　香社研　2008年

■「自己調整学習の理論」　バリー・J・ジマーマン，ディル・H・ジャンク編著　塚野州一編訳
北大路書房　2006年

■「自己調整学習の実践」　バリー・J・ジマーマン，ディル・H・ジャンク編著　塚野州一編訳
北大路書房　2007年

■「自己調整学習と動機づけ」　バリー・J・ジマーマン，ディル・H・ジャンク編著　塚野州一編訳
北大路書房　2009年

■「自己調整学習の成立過程」　伊藤　崇達　北大路書房　2009年

■「小学校学習指導要領解説　社会編」　文部科学省　2008年

■「社会認識教育の構造改革」　社会認識教育学会編　明治図書　2006年

■初等教育資料　３月号　「社会参画への意欲や態度を形成する教育の推進」　2012年

■「新しい公共を担う人びと」　奥野　信宏　栗田　卓也　岩波書店　2010年　など

■「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会―論点整理―」
文部科学省　2014年

■教育課程の編成に関する基礎的研究　報告書７
「資質や能力の包括的育成に向けた教育課程の基準の原理」　国立教育政策研究所　2014年

■初等教育資料　７月号　鼎談「問題解決的学習の充実をどう図るか」　2014年

■社会科教育　8月号　「新視点で考える教材と授業作り」他　澤井陽介　2014年

平成27年度　本部役員組織

香川県小学校教育研究会社会科部会
香川県小学校社会科教育研究会

	氏　名	学　校　名
会　長	柴田　英明	観音寺市立柞田小学校
副会長	山田　知志	坂出市立坂出小学校
	廣瀬　強	さぬき市立神前小学校
	亀井　伸治	高松市立十河小学校
幹　事	山下　隆章	三木町立白山小学校
	羽座　則史	小豆島町立星城小学校
	岩﨑　保雄	善通寺市立東部小学校
会　計 監　査	樋口　昌樹	丸亀市立岡田小学校
	上井　嘉	高松市立高松第一小学校

顧　問（歴代会長）

糸川　達	柳　清茂	池内　博	岡野　啓
川田　豊弘	亀井　達男	曽根　照正	中田　清
上川　敦生	丸野　忠義	古市　聖治	大西　孝典
山﨑　敏和	植松　勝	高橋　英弐	唐木　裕志
佐藤　正文	岡根　淳二	徳田　仁司	野村　一夫

事務局　河田　祥司　黒田　拓志　轟　秀明
藤本　博文　渡部　岳史

【事務局の役割分担】

事務内容 ＼ 事務局			附属高松小			附属坂出小	
			河田	轟	黒田	藤本	渡部
研究運営	研　究		◎		○	○	
	理事会・総会		◎		○	○	
	全国大会準備	総務部	○		◎		
		研究部	◎		○	○	
		庶務部	○			◎	
		編集部		◎			○
		宿泊輸送部		○			◎
研修	夏季研修会				○	◎	
	研究フォーラム				◎		○
	定例研修会			東◎			西◎
	単元指導計画作成			◎		◎	
事業	社会科の基礎・テスト			○	◎		○
	香社研だより（情報発信）			東◎			西◎
	社会科教室発行				162号		163号
	実地研修			◎			○
	委託事業						◎
携帯連絡網管理			◎			○	
会　　計			◎		○	○	◎

平成27年度運営方針

香川県小学校社会科教育研究会

Ⅰ　研究の在り方について

①　各支部の独自性を生かしつつ，全県が一体となって研究に取り組んでいくことが重要である。香社研の会員は，個人としての研究も大切にしつつ，組織で研究を進めることを大切にしたい。今年度も香社研においては各支部の研究と個人研究の両面を大切にしていきたい。

②　研究は，積み重ねが重要で，その核となるものは授業力である。これは学校の研究においても同じで，その学校の伝統を積み上げて「特色ある学校づくり」をしていく必要がある。香社研は，その時々の課題や思いや論を単独に研究するものではない。伝統として積み重ねてきた研究の上に立ち，その時の課題を正面から受け止め研究を深めていきたい。時流に流された内容に偏らないようにしたい。

Ⅱ　運営について

1　運営全体

①　「香社研」で勉強できることを喜びとしていた考え方が弱くなり，「香社研」に入っていてもいなくても自分が得することは変わらない，かえって入っていれば仕事が増えるという考え方が強くなってきたように感じている。

　そこで，平成２８年度の全国大会を１つの契機とし，会員の意識改革を継続して行っていきたい。香川県から発信する，香川県から社会科教育や小学校教育の在り方について提案していくという気概をもち，自分の力をつけるために参加をするという意識を高めたい。また，今後，若年の教員が増加してくることを考慮して，引き続き実地研修など，若い教員が主体となって企画・運営を行えるようにするなど，香社研で力をつけていくことができるような研修の在り方を探っていきたい。

②　「香社研」の特色づくりをもとに，様々な研修会において若年層，女性，さらには他教科の参加者数を増やす方向で取り組む。

③　平成２７年度は，全国大会に向けての地盤を固める年としたい。全国大会のテーマのもと，各郡市が研究を深め，大会に向けての準備を着実に進めたい。

④　大会会場校との連絡を密に取り，スムーズな大会運営になるように努める。また，両会場校の独自性を尊重しつつ，県全体の研究として，足並みがそろうよう配慮した運営に心がける。

2　総会，反省会

①　総会は，今年度の運営方針，研究の方向性を明らかにする場でもあるので，各郡市の庶務，研究部を中心に多数会員が参加できるよう努める。

②　総会，反省会の会場は，理事会，総会，懇親会等の会場が必要であることと，全県から集まるため交通の便も考えなければならない。特に小豆から来る会員について配慮を行う。

③　反省会等は，各郡市の交流の場でもある。全国大会に向けて，積極的に参加者を増やし，県全体のつながりを強くしていく。

Ⅲ　研修会について

1　夏季研修会

①　夏季研は香小研社会科部会と香社研が主催する。

②　夏季研は，当該年度の各郡市の研究の成果を発表する場として位置付ける。香小研社会科部会並びに香社研として会員全員が集まる唯一の機会でもあるので，香社研のテーマ沿いながら，各郡市の発表を工夫して行う。なお，発表は全国大会の課題別分科会を意識したものとする。

③　夏季研修会の会場確保及び運営については，当番郡市が中心になって行う。

2　定例研修会

①　定例研修会は，香社研が主催する。

②　定例研修会は，各郡市が香社研の研究主題を受けて，特色ある研究主題を設定し，その研究成果と課題を公表することにより，香川の社会科教育の発展に資するものである。全国大会に向け，香社研の研究が充実するよう提案の工夫を行う。授業公開，地域教材の紹介，模擬授業，香社研だよりによるアピールなど，各郡市の特色を出し，魅力あるものにしていく。

③　参加人数を確保するため，会の持ち方について下記のような工夫を行っていく。

・　各郡市は会員が積極的に参加できるように人数確保に努める。なお，定例研担当は，必ず参加し，他郡市の研究を広げる役割を担う。どうしても参加できない場合は，代役を手配し，郡市の交流，自身の郡市の研究の活性化に努める。

・　事務局は，全ての定例会に参加する。

・　指導者は２名とする。１名は，県教委，市教委，教育事務所等の指導主事を中心に当番郡市が依頼する。もう１名は，指導というよりも社会科教育を中心に教育一般について先輩として講話し，現職と先輩とのつながりを大切にする。当番郡市が，顧問・香社研の先輩方の中から依頼する。

④　定例研修会の会場確保，指導者の依頼，運営については当番郡市が中心になって行う。

3　研究フォーラム

①　研究フォーラムは香社研が主催する。

②　各郡市の研究主題による特色ある研究を個人として深めた研究や個人の研究を交流し，香川の社会科研究の特色ある研究を把握するとともに，各支部の研究や個人研究の研究意欲を高めることに資するものである。

③　総会（今年度の香社研の研究の方向性提案），夏季研（本年度の研究の成果の交流）をふまえて，研究フォーラム（今年度の振り返りと来年度の研究の方向性）を行うというように位置付け，研究をつながりのあるものにしていく。

④　表彰にあたっては，複数の選考者によって行い，表彰の理由を明確にし，全員の研究意欲を高める。

⑤　研究フォーラム後に懇親会を行い，研究の推進と会員の親睦を図ることとする。

Ⅲ　研究大会について

①　研究大会は，香小研社会科部会と香社研が主催する。

②　研究内容は，香社研の研究内容を基盤として，会場校の特色を生かした内容で研究を進める。

③　大会の運営については，その都度香社研本部が提案し，理事会の議を経て行う。

Ⅳ　基礎・テストの編集について

①　社会科の基礎・テストについては，学力の充実を図る目的をもって，全国的・全県的な視野に立った編集を行う。

②　教科書，地図帳等に基づき編集を行い，学習の補充と発展を図り，適切な評価が行えるよう常に改善に努める。

③　基礎・テストの内容の充実のため，適切な検討の機会を設ける。

④　質の向上を図る意味から３～６年に教頭・主幹教諭等の指導者を置く。

⑤　会場費，執筆費，編集費，教材費等を確保し，円滑に編集が行えるようにする。

Ⅴ　その他

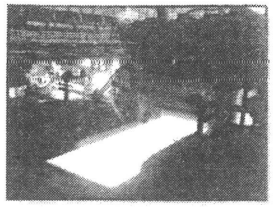
研究を深めたり，香社研の発展のために，携帯メールやＨＰ等を使い，積極的に情報を発信，共有していく。

平成27年度　年間運営・研修計画（案）

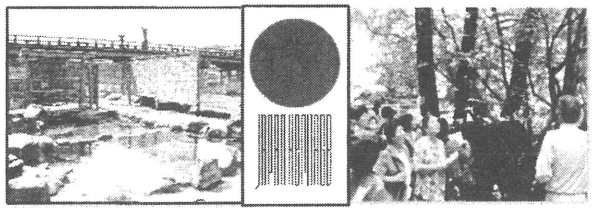
月	理事会 総会等	全国大会関連	運営部				編集部	情報発信部
			定例研修会 研究フォーラム	夏季研修会	指導計画	実地研修	社会科の基礎・テスト編集委員会	社会科教室 香社研だより
4	10日(金) 18:30～ 庶務打合会 〈附属高松小〉 29日(水) 13:00～ 理事会 15:00～ 総会 〈附属高松小〉 17:00～ 歓送迎会 〈銀星旅館〉					29日(水) 11:00～ フィールドワーク運営委員会 〈附属高松小〉	29日(水) 9:00～ 第1回 平成28年度1 基礎・テスト 〈附属高松小〉	
5		9日(土) 9:30～ 第1回実行委員会 〈附属高松小〉		30日(土) 9:30～ 事前検討会① 〈附属坂出小〉 各郡市提案者・協力者参加	30日(土) 11:00～ 計画・分担 〈附属坂出小〉 各郡市庶務・研究部長参加	打ち合わせ会 (随時) 29日(金) 案内状発送 (製鉄所見学も同時に発送)		社会科教室 第162号 (総会特集)
6		6日(土) 9:30～ 十河小事前研修会 〈十河小〉 16日(火) 十河小研究授業 (澤井先生来校) 17日(水) 観音寺小研究授業 (澤井先生来校) 27日（土） 9:30～ 観音寺小事後研修会 〈観音寺小〉 11:30～ 第1回会場校打合会	20日(土) 9:30～ (仲・善) 〈　　〉	13日(土) 13:30～ 事前検討会② 〈附属高松小〉 20日 13:00～ 夏季研会場下見	各郡市にて作成・検討 ↓	30日(火) 申し込み締切	13日(土) 9:30～ 第2回 平成28年度1 基礎・テスト 〈附属高松小〉	
7	2日(木) 3日(金) 全国大会 全小社理事会 〈山形〉		4日(土) 9:30～ (三・観) 〈　　〉	4日(土) 13:30～ 事前検討会③ 〈附属坂出小〉 18日(土) 9:30～ 製本・発送 〈附属高松小〉 27(月) 会場準備 13:00～ 〈昭和小他〉 28(火) 9:30～	↓ 28日(火) 指導計画提出	1日(水) 追加募集 15日(水) 日程・乗車ポイント等発送	18(土) 13:30～ 第3回 平成28年度1 基礎・テスト 第1回 平成28年度2 基礎・テスト 〈附属高松小〉	香社研だより (高松) 夏季研修会要項(坂・綾)

				夏季研修会 （坂・綾） 〈昭和小他〉	締め切り			
8						8日（土） 9日（日） 実地研修 （製鉄所等） 〈真庭・三朝温泉 鬼ノ城等〉	平成28年度1 基礎・テスト入 稿・校正作業 （事務局）	
9		12日(土) 9:00～ 第2回実行委員会 11:30～ 第2回会場校打合会 〈附属坂出小〉			12日(土) 13:30～ 指導計画編集会 〈附属坂出小〉		26日（土） 13:30～ 第2回 平成28年度2 基礎・テスト 〈附属高松小〉	香社研だより （坂・綾） 香社研だより (実地研修報告)
10	29日（木） 30日（金） 全国大会 全小社理事会 〈広島〉 バスにて参加	課題別分科会提案 依頼 （全小社理事会）	3日（土） 9:30～ （小豆，さ・東） 〈附属高松小〉 24日（土） 9:30～ （高松）				24日(土) 13:30～ 第3回 平成28年度2 基礎・テスト 〈附属高松小〉	香社研だより （小豆，さ・東）
11	28日（土） 四国理事会 〈高松〉		7日（土） 9:30～ （丸亀） 〈　　〉		7日(土) 13:30～ 指導計画編集会 〈附属坂出小〉		平成28年度2 基礎・テスト入 稿・校正作業 （事務局）	香社研だより （高松）
12	5日(土) 15:00～ 理事会 〈附属高松小〉 17:00～ 年末反省会 〈銀星旅館〉	10日(木) 1次案内発送 課題別分科会提案 希望を各県に打診			5日(土) 指導計画編集会 9:30～ 〈附属高松小〉			
1		23日(土) 9:00～ 第3回実行委員会 11:30～ 第3回会場校打合会 〈附属高松小〉			23日(土) 指導計画編集会 13:30～ 〈附属高松小〉			
2	20日（土） 17:00～ 年度末懇親会 〈坂出〉		20日（土） 13:00～ 研究フォーラム 〈附属坂出小〉		指導計画入稿			香社研だより （三・観）
3	27日(日) 9:30～ 理事会 〈附属高松小〉	課題別分科会決定			指導計画完成			社会科教室 第163号 （本年度のまとめ）
備考		未定 十河小研究授業 （中田先生来校） 十河小事前研 観音寺小研究授業 （安野先生来校） 観音寺小事前研						

平成２７年度　香社研フィールドワークのご案内



平成２６年度のフィールドワークも例年と同様に，旅行会社の既製のプランにないオリジナルツアーを企画しました。教科書に掲載されている事例地を中心にめぐる１泊２日のフィールドワークを通して，歴史，伝統，文化や，人々の温かい心にふれることができました。毎年、多くの先生方からご好評をいただき，参加人数も年々増加しております。



本年度も香社研ならではのツアーを下記のように計画しております。香社研の会員間のネットワークを広げることはもちろんのこと，会員でない方の参加も呼びかけて交流を深めたり，教材への造詣を深めたりしていきたいと思います。

1　目的

①　教科書に掲載されている地域を巡り，教材研究を深める。
②　教科，世代を問わず香社研や教員同士の親睦を深め，ネットワークを広げる。

2　主な見学地

①　ＪＦＥスチール（株）西日本製鉄所（倉敷地区）

1200℃に加熱された約 10ｔの真っ赤な鉄が巨大な圧延機で薄く延ばされていく様子などモノづくりの迫力、面白さをご覧下さい。

②　バイオマスタウン真庭体験ツアー

テレビ東京系「ガイアの夜明け」でも紹介されました！！

真庭の林業体験や、バイオマス事業への広がりを知り、木材の優位性を再認識し、環境意識の向上へつながる体験活動を行います。

③　三朝温泉・三徳山

「六根清浄と六感治癒の地～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～」として、三徳山・三朝温泉が日本遺産として認定された注目のスポットです。

④　境港

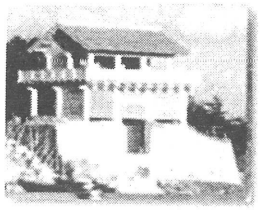
カニとマグロの水揚げ日本一の日本有数の水産物の水揚げを誇る漁港として、貿易・交通の要衝の港として日本海屈指のみなとまち「境港」で海鮮グルメを堪能します。

⑤　鬼ノ城

フィールドワークといえば、恒例の日本 100 名城めぐり。今年度は、どの歴史書の類にも一切記されていないなど、その真相は未だに解明されていない謎の山城を巡ります。

3　交通手段

貸し切りバス



4　費用

１人２０，０００円(バス代・宿泊費・食事代など)

5　申し込み方法

各支部社研フィールドワーク委員へ別紙のファックスにて申し込みください。

6　行程

一日目	八月八日（土）	津田 SA＝高松駅＝坂出駅＝＝＝ＪＦＥスチール（株）西日本製鉄所（倉敷地区）＝＝ 6:40　7:20　8:00　9:00　12:30 ＝真庭市バイオマスタウン体験＝＝＝三朝温泉＝＝懇親会 14:00　17:00　18:30　21:00
二日目	八月九日（日）	旅館＝＝三徳山投入堂参拝（三朝散策）＝＝境港にて昼食・散策＝＝＝＝鬼ノ城＝＝ 8:00　8：30　10:30　12:00　14：00　16:30　17：30 ＝坂出駅＝＝高松駅＝＝津田 SA 19：00　19:40　20:20

平成27年度　香社研　役員名簿

【高松市社研】

役員名	氏名	職名	学年等	香社研理事(○)
会長	亀井　伸治	校長	高松市立十河小学校	○
副会長	上井　　嘉	副校長	高松市立高松第一小学校	
副会長	山下　隆章	校長	三木町立白山小学校	
副会長	石原　　博	校長	高松市立庵治小学校	
庶務	瀧　　義幸	教諭	高松市立一宮小学校	○
庶務	髙木　浩彰	教諭	高松市立国分寺南部小学校	
庶務	西本絵里香	教諭	高松市立一宮小学校	
研究部	真鍋　長嗣	教諭	高松市立十河小学校	

【高松北社研】

役員名	氏名	職名	学年等	香社研理事(○)
会長	上井　　嘉	副校長	高松市立高松第一小学校	○
副会長	石原　　博	校長	高松市立庵治小学校	
研究部	仁科　大成	教諭	高松市立栗林小学校	
研究部	白川　由美	教諭	高松市立高松第一小学校	

【高松南社研】

役員名	氏名	職名	学年等	香社研理事(○)
会長	山下　隆章	校長	三木町立白山小学校	○
副会長	亀井　伸治	校長	高松市立十河小学校	
研究部	水口　　純	教諭	高松市立浅野小学校	
研究部	池田　康輔	教諭	高松市立川東小学校	

【丸亀社研】

役員名	氏名	職名	学年等	香社研理事(○)
会長	野村　一夫	校長	丸亀市立飯山北小学校	○
副会長	樋口　昌樹	校長	丸亀市立岡田小学校	
副会長	山野　正登	校長	丸亀市立本島小学校	
庶務	多田　明広	教諭	丸亀市立本島小学校	○
庶務	秋山　侑大	教諭	丸亀市立城坤小学校	○
研究部	和田　早苗	教諭	丸亀市立郡家小学校	
研究部	櫻井　道芳	教諭	丸亀市立郡家小学校	

【坂・綾社研】

役員名	氏名	職名	学年等	香社研理事(○)
会長	山田　知志	校長	坂出市立坂出小学校	○
副会長	田中　直樹	校長	綾川町立昭和小学校	
副会長	佐藤　孝治	教頭	坂出市立加茂小学校	
副会長	福家　光洋	教頭	綾川町立綾川小学校	
庶務	河野　富男	教諭	宇多津町立宇多津小学校	○
庶務	岡本　敏英	教諭	坂出市立坂出小学校	
研究部	網野　未来	教諭	綾川町立昭和小学校	
研究部	宮武　克明	教諭	綾川町立滝宮小学校	
研究部	青木　弥生	教諭	綾川町立陶小学校	
研究部	宮崎　由紀	教諭	坂出市立林田小学校	
研究部	岡野　彩香	教諭	坂出市立川津小学校	

【小豆社研】

役員名	氏名	職名	学年等	香社研理事(○)
会長	羽座　則史	校長	小豆島町立星城小学校	○
庶務	平林　泰徳	教諭	土庄町立土庄小学校	○
研究部	岡　亨	教諭	土庄町立土庄小学校	
研究部	母倉　秀敏	教諭	小豆島町立池田小学校	
研究部	上嶋　光晴	講師	小豆島町立星城小学校	
研究部	林　宗利	教諭	小豆島町立安田小学校	

【さ・東社研】

役員名	氏名	職名	学年等	香社研理事(○)
会長	廣瀬　強	校長	さぬき市立神前小学校	○
副会長	竹内　久司	校長	さぬき市立津田小学校	
副会長	亀井　健男	教頭	さぬき市立長尾小学校	
庶務	白澤　一修	教諭	東かがわ市立三本松小学校	○
庶務	原井　和彦	教諭	東かがわ市立白鳥小学校	
研究部	松村　和仁	教諭	東かがわ市立本町小学校	
研究部	梅本　明宏	教諭	さぬき市立長尾小学校	
研究部	久保田直寛	教諭	東かがわ市立大内小学校	

【仲・善社研】

役員名	氏名	職名	学年等	香社研理事(○)
会長	岩﨑　保雄	校長	善通寺市立東部小学校	○
副会長	森　　昭二	教頭	善通寺市立東部小学校	
庶務	大木　陽平	教諭	まんのう町立満濃南小学校	○
庶務	大久保敬現	教諭	善通寺市立竜川小学校	
研究部	滝井　康隆	教諭	多度津町立四箇小学校	
研究部	竹森　仁志	教諭	琴平町立琴平小学校	

【三・観社研】

役員名	氏名	職名	学年等	香社研理事(○)
会長	柴田　英明	校長	観音寺市立柞田小学校	○
副会長	安藤　　通	教頭	三豊市立財田中小学校	
庶務	岩橋　秀司	教諭	三豊市立財田中小学校	○
庶務	平口　真章	教諭	観音寺市立大野原小学校	
研究部	合田　雅気	教諭	観音寺市立常磐小学校	
研究部	出濱　大資	教諭	観音寺市立観音寺小学校	

平成27年度　香社研　研修会別会員名簿

【高松北社研】　　○は各部会の代表者

番号	会員氏名	学校名	学年等
定例研修会	○中筋　修	教諭	高松市立弦打小学校
	藤牧沙也香	教諭	高松市立新番丁小学校
	白根　雅史	教諭	高松市立太田小学校
基礎・テスト編集委員	○白根　雅史	教諭	高松市立太田小学校
	中筋　修	教諭	高松市立弦打小学校
	上村　勇介	教諭	高松市立屋島東小学校
	石田　優太	教諭	高松市立太田小学校
	黒川　幸宣	教諭	高松市立牟礼小学校
社会科情報発信	○藤牧沙也香	教諭	高松市立新番丁小学校
	小松　裕貴	教諭	高松市立亀阜小学校
フィールドワーク運営委員	○段松　千尋	教諭	高松市立木太小学校

【高松南社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
定例研修会	○藤澤　大地	教諭	高松市立十河小学校
	久保　祐亮	教諭	高松市立十河小学校
	鸞羽　美緒	教諭	高松市立十河小学校
	高尾　悠司	教諭	高松市立十河小学校
基礎・テスト編集委員	小原　敏昭	教頭	高松市立浅野小学校
	○柏　徹哉	教諭	高松市立川添小学校
	吉岡　光平	教諭	高松市立多肥小学校
	池田　康輔	教諭	高松市立川東小学校
	髙木　浩彰	教諭	高松市立国分寺南部小学校
	坪井　孝明	教諭	高松市立鶴尾小学校
社会科情報発信	○久保　祐亮	教諭	高松市立十河小学校
フィールドワーク運営委員	○河西　学	教諭	高松市立円座小学校

【丸亀社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
定例研修会	○多田　明広	教諭	丸亀市立本島小学校
	中西　昇	教諭	丸亀市立垂水小学校
	櫻井　道芳	教諭	丸亀市立郡家小学校
	植松　美紀	教諭	丸亀市立城乾小学校
	吉田　良三	教諭	丸亀市立飯山南小学校
基礎・テスト編集委員	小谷　修	教頭	丸亀市立城東小学校
	○北分　英樹	教諭	丸亀市立飯野小学校
	櫻井　道芳	教諭	丸亀市立郡家小学校
	乗松　直樹	教諭	丸亀市立飯山南小学校
	髙木　弘信	教諭	丸亀市立城東小学校
	和田　早苗	教諭	丸亀市立郡家小学校
社会科情報発信	和田　早苗	教諭	丸亀市立郡家小学校
フィールドワーク運営委員	池田　和樹	教諭	丸亀市立城西小学校

【坂・綾社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
定例研修会	○河野　富男	教諭	宇多津町立宇多津小学校
	網野　未来	教諭	綾川町立昭和小学校
	宮武　克明	教諭	綾川町立滝宮小学校
	岡本　敏英	教諭	坂出市立坂出小学校
基礎・テスト編集委員	佐藤　孝治	教頭	坂出市立加茂小学校
	○山本香代子	教諭	坂出市立坂出小学校
	宮崎　由紀	教諭	坂出市立林田小学校
	青木　弥生	教諭	綾川町立陶小学校
	花車　　舞	教諭	綾川町立陶小学校
社会科情報発信	○宮武　克明	教諭	綾川町立滝宮小学校
フィールドワーク運営委員	佐藤　浩子	教諭	宇多津町立宇多津小学校
	橋本　美穂	教諭	宇多津町立宇多津北小学校

【小豆社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
定例研修会	○平林　泰徳	教諭	土庄町立土庄小学校
	岡　　亨	教諭	土庄町立土庄小学校
基礎・テスト編集委員	○林　　宗利	教諭	小豆島町立安田小学校
基礎・テスト編集委員	上嶋　光晴	講師	小豆島町立星城小学校
社会科情報発信	○母倉　秀敏	教諭	小豆島町立池田小学校
フィールドワーク運営委員	○塩田　あかり	講師	小豆島町立苗羽小学校

【さ・東社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
定例研修会	○白澤　一修	教諭	東かがわ市立三本松小学校
	山﨑　　悠	教諭	さぬき市立石田小学校
	梅本　明宏	教諭	さぬき市立長尾小学校
	原井　和彦	教諭	東かがわ市立白鳥小学校
	六車　　浩	教諭	東かがわ市立大内小学校
基礎・テスト編集委員	○六車　　浩	教諭	東かがわ市立大内小学校
	田中由賀里	教諭	さぬき市立長尾小学校
社会科情報発信	○六車　　浩	教諭	東かがわ市立大内小学校
フィールドワーク運営委員	○久保田直寛	教諭	東かがわ市立大内小学校
	山﨑　　悠	教諭	さぬき市立石田小学校

【仲・善社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
定例研修会	○藤田　啓明	教諭	善通寺市立西部小学校
	滝井　康隆	教諭	多度津町立四箇小学校
	竹森　仁志	教諭	琴平町立琴平小学校
	尾﨑　純一	教諭	善通寺市立筆岡小学校
	大木　陽平	教諭	まんのう町立満濃南小学校
基礎・テスト編集委員	森　昭二	教頭	善通寺市立東部小学校
	○大木　陽平	教諭	まんのう町立満濃南小学校
	滝井　康隆	教諭	多度津町立四箇小学校
社会科情報発信	○藤田　啓明	教諭	善通寺市立西部小学校
フィールドワーク運営委員	○尾﨑　純一	教諭	善通寺市立筆岡小学校

【三・観社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
定例研修会	○岩橋　秀司	教諭	三豊市立財田中小学校
	出濱　大資	教諭	観音寺市立観音寺小学校
	古子　貴将	教諭	観音寺市立観音寺小学校
	白川　康太	教諭	観音寺市立観音寺小学校
基礎・テスト編集委員	小西　寛	教頭	観音寺市立柞田小学校
	○泉宮　広也	教諭	三豊市立上高瀬小学校
	片山　大輔	教諭	三豊市立仁尾小学校
	岡田　健	教諭	観音寺市立豊浜小学校
社会科情報発信	○大平　晃司	教諭	観音寺市立大野原小学校
フィールドワーク運営委員	○守屋　顕	教諭	観音寺市立柞田小学校

平成27年度　香社研　会員名簿

【高松北社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	髙橋　洋子	高松市立新番丁小学校	少人数
2	藤牧沙也香	高松市立新番丁小学校	4年
3	小松　裕貴	高松市立亀阜小学校	4年
4	仁科　大成	高松市立栗林小学校	5年
5	上井　　嘉	高松市立高松第一小学校	副校長
6	白川　由美	高松市立高松第一小学校	6年
7	四宮　　健	高松市立高松第一小学校	6年
8	高木　恭子	高松市立太田小学校	3年(少)
9	喜岡　永光	高松市立太田小学校	4年(少)
10	白根　雅史	高松市立太田小学校	5年
11	石田　優太	高松市立太田小学校	6年
12	大奥　洋介	高松市立鬼無小学校	6年
13	中村　祥子	高松市立鬼無小学校	3年
14	石原　　博	高松市立庵治小学校	校長
15	田坂　好世	高松市立下笠居小学校	3年
16	橋本　康裕	高松市立太田南小学校	主幹
17	山﨑　麻子	高松市立太田南小学校	少人数
18	戸城　一騎	高松市立木太南小学校	3年
19	上村　勇介	高松市立屋島東小学校	4年
20	池田　茂樹	高松市立屋島西小学校	教頭
21	黒川　幸宣	高松市立牟礼小学校	6年
22	中筋　　修	高松市立弦打小学校	6年
23	段松　千尋	高松市立木太小学校	3年

【高松南社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	坪井　孝明	高松市立鶴尾小学校	学力･進路支援担当
2	柏　　徹哉	高松市立川添小学校	3･4･5年
3	瀧　　義幸	高松市立一宮小学校	4年
4	西本絵里香	高松市立一宮小学校	4年
5	吉岡　光平	高松市立多肥小学校	6年
6	渡辺　保典	高松市立多肥小学校	4年
7	河西　　学	高松市立円座小学校	5年
8	真鍋　長嗣	高松市立十河小学校	3年
9	藤澤　大地	高松市立十河小学校	4年
10	久保　祐亮	高松市立十河小学校	5年
11	鸞羽　美緒	高松市立十河小学校	5年
12	山下　　悠	高松市立十河小学校	5年
13	森口　英樹	高松市立十河小学校	6年
14	高尾　悠司	高松市立十河小学校	6年
15	亀井　伸治	高松市立十河小学校	校長
16	安倍　幸則	高松市立十河小学校	教頭
17	大嶋　和彦	高松市立十河小学校	教頭
18	岡本　英孝	高松市立前田小学校	教頭
19	西山　雅道	高松市立植田小学校	3年

20	野土　裕彦	高松市立大野小学校	6年
21	森川　美香	高松市立大野小学校	4年
22	花房　祐史	高松市立大野小学校	4年
23	小原　敏昭	高松市立浅野小学校	教頭
24	水口　　純	高松市立浅野小学校	4年
25	葛西　秀樹	高松市立浅野小学校	少人数
26	池田　康輔	高松市立川東小学校	2年
27	黒川　浩一	高松市立香南小学校	6年
28	福家　正人	高松市立国分寺北部小学校	4年
29	髙木　浩彰	高松市立国分寺南部小学校	4年
30	蘆原　秀稔	高松市立国分寺南部小学校	特別支援
31	森　　幸代	高松市立国分寺南部小学校	5年
32	山下　隆章	三木町立白山小学校	校長
33	小笠原　学	三木町立氷上小学校	教頭

【丸亀社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	合田　吉宏	丸亀市立城乾小学校	教頭
2	植松　美紀	丸亀市立城乾小学校	4年
3	秋山　侑大	丸亀市立城坤小学校	6年
4	亀山　由佳	丸亀市立城坤小学校	4年
5	藤井　朋子	丸亀市立城西小学校	3年
6	池田　和樹	丸亀市立城西小学校	3年
7	小谷　　修	丸亀市立城東小学校	教頭
8	旅田　敏弘	丸亀市立城東小学校	3年
9	髙木　弘信	丸亀市立城東小学校	4年
10	阿野　裕子	丸亀市立城辰小学校	5年
11	成行　恭子	丸亀市立城辰小学校	特別支援
12	山野　正登	丸亀市立本島小学校	校長
13	多田　明広	丸亀市立本島小学校	少人数
14	和田　早苗	丸亀市立郡家小学校	4年
15	櫻井　道芳	丸亀市立郡家小学校	6年
16	増井　泰弘	丸亀市立郡家小学校	少人数
17	北分　英樹	丸亀市立飯野小学校	5年
18	杉本　友徳	丸亀市立垂水小学校	4年
19	川池　　南	丸亀市立垂水小学校	4年
20	寒川　英樹	丸亀市立垂水小学校	6年
21	中西　　昇	丸亀市立垂水小学校	少人数
22	眞井　孝征	丸亀市立富熊小学校	少人数
23	馬場　直明	丸亀市立栗熊小学校	特別支援
24	樋口　昌樹	丸亀市立岡田小学校	校長
25	太田　和美	丸亀市立岡田小学校	3年
26	小山　沙織	丸亀市立飯山北小学校	3年
27	野村　一夫	丸亀市立飯山北小学校	校長
28	吉田　良三	丸亀市立飯山南小学校	5年
29	乗松　直樹	丸亀市立飯山南小学校	6年

【坂綾社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	山田　知志	坂出市立坂出小学校	校長
2	大西　浩史	坂出市立坂出小学校	教頭
3	山本香代子	坂出市立坂出小学校	1年
4	岡本　敏英	坂出市立坂出小学校	3年
5	前田　朋寛	坂出市立東部小学校	3年
6	藤田　順也	坂出市立金山小学校	1年
7	丸尾　浩一	坂出市立西庄小学校	5年
8	川中　祥照	坂出市立林田小学校	校長
9	山西由里子	坂出市立林田小学校	2年
10	宮崎　由紀	坂出市立林田小学校	6年
11	田井　敏之	坂出市立加茂小学校	校長
12	佐藤　孝治	坂出市立加茂小学校	教頭
13	島岡　真弓	坂出市立加茂小学校	5年
14	福田　佳代	坂出市立府中小学校	3年
15	白川　豊浩	坂出市立川津小学校	教頭
16	岡野　彩香	坂出市立川津小学校	3年
17	大砂古佳美	坂出市立川津小学校	2年
18	藤井　隆法	坂出市立松山小学校	4年
19	吉田　和弘	坂出市立櫃石小学校	校長
20	福家　光洋	綾川町立綾上小学校	教頭
21	宇山　知昌	綾川町立綾上小学校	特別支援
22	田中　直樹	綾川町立昭和小学校	校長
23	網野　未来	綾川町立昭和小学校	4年
24	青木　弥生	綾川町立陶小学校	5年
25	花車　舞	綾川町立陶小学校	4年
26	宮武　克明	綾川町立滝宮小学校	3年
27	花房　長広	綾川町立羽床小学校	校長
28	河野　富男	宇多津町立宇多津小学校	3年
29	佐藤　浩子	宇多津町立宇多津小学校	4年
30	高野　雅信	宇多津町立宇多津小学校	4年
31	橋本　美穂	宇多津町立宇多津北小学校	4年

【小豆社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	羽座　則史	小豆島町立星城小学校	校長
2	平林　泰徳	土庄町立土庄小学校	特別支援
3	岡　亨	土庄町立土庄小学校	3年
4	母倉　秀敏	小豆島町立池田小学校	特別支援
5	上嶋　光晴	小豆島町立星城小学校	3年
6	林　宗利	小豆島町立安田小学校	学力支援
7	塩田　あかり	小豆島町立苗羽小学校	少人数

【さぬき・東かがわ社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	廣瀬　　強	さぬき市立神前小学校	校長
2	竹内　久司	さぬき市立津田小学校	校長
3	亀井　健男	さぬき市立長尾小学校	教頭
4	六車　信二	さぬき市立志度小学校	教頭
5	和田　千幸	さぬき市立長尾小学校	専科
6	田中由賀里	さぬき市立長尾小学校	6年
7	梅本　明宏	さぬき市立長尾小学校	3年
8	六車　　浩	東かがわ市立大内小学校	3年
9	久保田直寛	東かがわ市立大内小学校	4年
10	山﨑　　悠	さぬき市立石田小学校	5年
11	原井　和彦	東かがわ市立白鳥小学校	6年
12	白澤　一修	東かがわ市立三本松小学校	少人数
13	松村　和仁	東かがわ市立本町小学校	3年
14	鎌田　紘行	東かがわ市立本町小学校	4年
15	成岡　喬穂	東かがわ市立本町小学校	特別支援
16	真鍋　和輝	さぬき市立さぬき北小学校	6年
17	江口　奈緒	さぬき市立さぬき北小学校	1年
18	松田　章子	さぬき市立志度小学校	5年

【仲善社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	岩﨑　保雄	善通寺市立東部小学校	校長
2	片井　　功	まんのう町立満濃南小学校	校長
3	森　　昭二	善通寺市立東部小学校	教頭
4	坂倉　　徹	まんのう町立満濃南小学校	教頭
5	森井　信一	まんのう町立仲南小学校	教頭
6	大木　陽平	まんのう町立満濃南小学校	3年
7	藤田　啓明	善通寺市立西部小学校	5年
8	滝井　康隆	多度津町立四箇小学校	5年
9	竹森　仁志	琴平町立琴平小学校	5年
10	尾﨑　純一	善通寺市立筆岡小学校	5年
11	大久保敬現	善通寺市立竜川小学校	6年

【三観社研】

番号	会員氏名	学校名	学年等
1	柴田　英明	観音寺市立柞田小学校	校長
2	福岡　和信	三豊市立詫間小学校	校長
3	臼杵　　優	三豊市立松崎小学校	校長
4	末澤　康彦	三豊市立大野小学校	校長
5	高橋　克佳	観音寺市立常磐小学校	教頭
6	深川　　隆	観音寺市立大野原小学校	教頭
7	小西　　寛	観音寺市立柞田小学校	教頭
8	大高　浩一	観音寺市立豊田小学校	教頭
9	安藤　　通	三豊市立財田中小学校	教頭
10	萬亀　弘吉	三豊市立詫間小学校	教頭
11	岡田　　健	観音寺市立豊浜小学校	6年

12	平口　真章	観音寺市立大野原小学校	6年
13	大平　晃司	観音寺市立大野原小学校	5年
14	藤田　政宏	観音寺市立大野原小学校	3年
15	木谷　厚子	観音寺市立観音寺小学校	6年
16	出濱　大資	観音寺市立観音寺小学校	5年
17	古子　貴将	観音寺市立観音寺小学校	6年
18	白川　康太	観音寺市立観音寺小学校	4年
19	合田　雅気	観音寺市立常磐小学校	5年
20	石井　英樹	観音寺市立柞田小学校	6年
21	守屋　　顕	観音寺市立柞田小学校	4年
22	岩橋　秀司	三豊市立財田中小学校	3年
23	浪越　由記	三豊市立比地大小学校	5年
24	泉宮　広也	三豊市立上高瀬小学校	6年
25	片山　大輔	三豊市立仁尾小学校	6年
26	矢野　勝裕	三豊市立詫間小学校	5年
27	秋元　一秀	三豊市立松崎小学校	5年
28	石川　浩史	三豊市立松崎小学校	3年

香川県小学校社会科教育研究会会則

1　総則

第１条　本会は，香川県小学校社会科教育研究会という。

第２条　本会は，会員相互連絡協調して，香川県社会科教育の振興を図ることを目的とする。

第３条　本会は，社会科教育に関心をもち，本会の趣旨に賛同する者をもって組織する。

2　事業

第４条　本会は，その目的を達成するために次の事業を行う。

1　社会科教育振興に関する研究会，発表会，講習会を開くこと

2　社会科教育に関する資料の収集，情報交換をすること

3　社会科教育に関する編集，刊行をすること

4　定例研究集会及び研究委員会等の開催に関すること

5　文部科学省並びに香川県教育委員会等の諮問に答え，意見の具申をすること

6　その他社会科教育に関すること

3　役員

第５条　本会に，次の役員をおく。

会長　１名　　副会長　若干名　　幹事　若干名　　会計監査　２名

理事（各郡市代表）若干名　顧問　若干名

事務局（運営・会計・研究部代表・編集部代表）若干名

第６条　会長，副会長は，理事会の議を経て，総会において承認する。

幹事，会計監査は，会長の指名とする。

理事は，各郡市研究会から選出する。

顧問は，本会の歴代会長とする。

事務局は，会長の指名とする。

第７条　会長は，本会を代表し，会務を総括する。

副会長は，会長をたすけ，会長事故のあるときは，その代理をする。

幹事は，本会の目的を達成するよう援助する。

会計監査は，会計事務を監査する。

理事は，理事会を構成し，重要事項を審議または議決し，会務の執行にあたる。

事務局は，運営事務，会計事務，研究事務，編集事務を処理する。

第８条　役員の任期は，１ヶ年とする。但し，重任することができる。
補欠役員の任期は，残任期間とする。
役員は，任期が満了しても後任者が就任するまで，その職務を行わなければならない。

４　理事会

第９条　理事会は，必要に応じて会長が招集する。

第 10 条 理事会は，総会に提出する議題を審議し，会務の執行に当たる。ただし，緊急を要する場合には会長，副会長で処理し，次の理事会の承認を求めるものとする。

５　総会

第 11 条　総会は，必要な場合会長が招集する。

第 12 条　総会は，必要に応じ，理事会から提出された事項について協議し，承認する。

６　定例研究集会

第 13 条　本会の事業を遂行するために，定例研究集会を開催する。

第 14 条　定例研究集会の組織及び運営については，理事会で決定する。

７　研究委員会等

第 15 条　本会の事業を遂行するために，研究委員会及び社会科の基礎・テスト編集委員会を開催する。

第 16 条　研究委員会及び社会科の基礎・テスト編集委員会の組織及び運営については理事会で審議し，委員会は会長が招集する。

８　会計

第 17 条　本会の経費は，会員の会費，寄付金並びに事業による収入金による。

第 18 条　本会の会計年度は，４月１日に始まり翌年３月３１日に終わる。

第 19 条　本会の予算の議決および決算の承認は，総会で行う。

附則

1　本会の規約の改廃は，理事会で決める。

2　本会の施行に必要な細則は，別に定める。

3　本規約は，昭和２４年４月１日より施行する。

4　平成１３年１月８日改正，平成１３年４月１日より施行する。

5　平成２１年４月２９日改正，同日より施行する。

6　平成２２年４月２９日改正，同日より施行する。

平成27年度

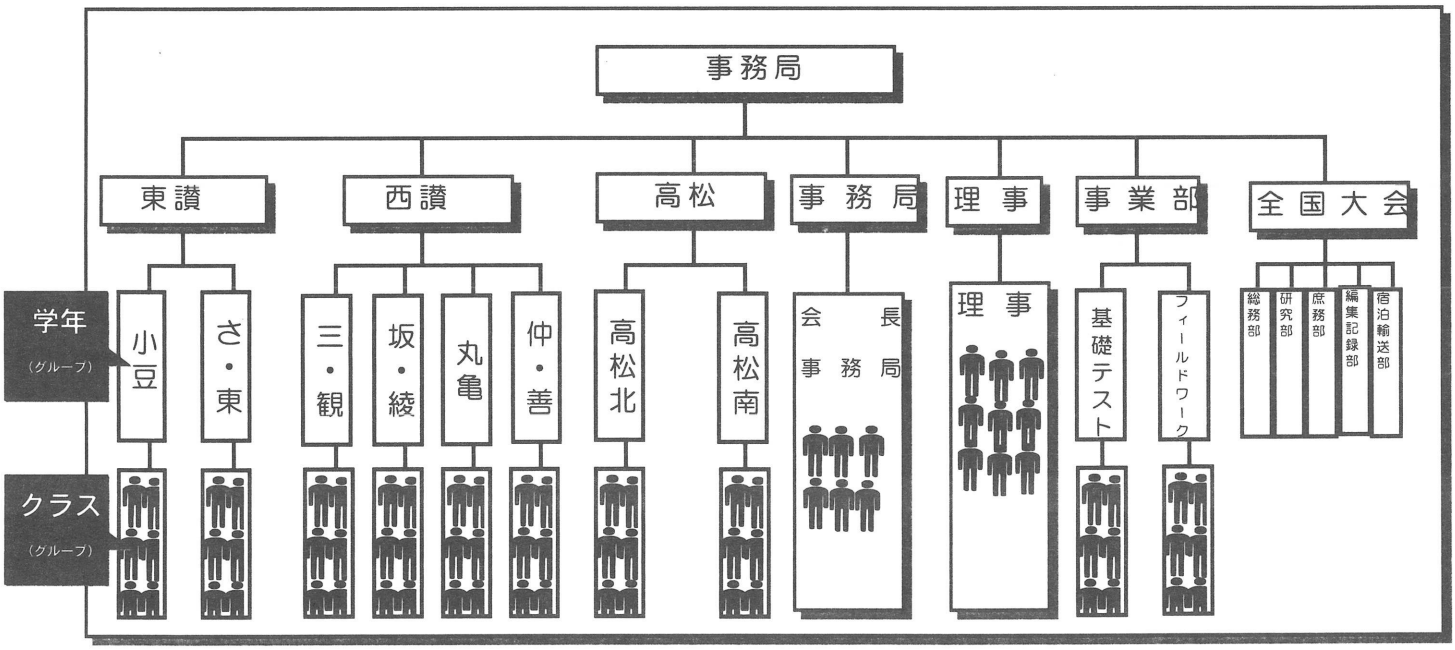
香社研　携帯メール 登録方法

当研究会では，平成23年度よりメールによる連絡網（ミッタシステム）を導入しています。このシステムは携帯，パソコン等の登録されたメールアドレスにメールを発信して，かつそのメールを見たかどうか管理者は確認できるシステムです。

■利点

① 今までのハガキやFAXと異なり，瞬時に全員に送れます。
② 伝達でなく同じ内容の文章が全員に配信できますので伝え忘れなどがなくなります。
③ 管理者さえメールアドレスを見ることができないのでプライバシーも保護されます。
④ 活動の案内などの緊急連絡に使えます（定例研・事前研　など）
⑤ 自宅に居なくても連絡は受け取れます（携帯メール使用時）
⑥ クラス単位で管理者（送信側）はメールを見たかどうか確認でき，また出欠も返事できます。
⑦ 退会，複数登録も自由にできます。

■香社研携帯メール　組織図



■各郡市での進め方（携帯メール登録方法）

後記の1~7の手順で，登録する。
※1　よく利用する携帯メールでお願いします。（アドレスは，他の人にはわかりません）
※2　理事，基礎テスト，フィールドワーク担当者は，各社研とは別に，もう一度クラスを追加登録してください。

3分でできる登録の方法

1　メールを送る

下記のメールアドレスに申請メール（宛先のみ。本文は不要です）を送ってください。

■申請メールの宛先　→ ad@ptamt.com

■QRコード利用時は →

Docomo　AU SoftBank

2　ご案内メールが返ってくるのを待つ

登録画面のアドレスが記入された「学校連絡網登録のご案内」メールが返ってこない場合は，各携帯会社にお問い合わせください。

［件名］学校連絡網登録のご案内

学校連絡網への登録を行ってください。http://ptamt.com/********

3　ご案内メールにあるアドレスをクリック

http://ptamt.com/********　右図

4　学校コードを入力する

①　学校コードをクリック
②　6195645　を入力する。
③　決定ボタンを押す

5　学年（グループ）を選択する

①6つの学年（グループ）の中から，ご自身の所属グループを選択する。

■東讃　■西讃　■高松　■事務局　■理事　■事業部　■全国大会

②決定ボタンを押す。

6　クラスを選択し，氏名を入力する

①クラスを選択する。

■小豆　■さ・東　■三・観　■坂・綾　■丸亀　■仲・善
■高松北　■高松南　■基礎テスト　■フィールドワーク
■総務部　■研究部　■庶務部　■編集記録部　■宿泊輸送部

②出席番号は，入れない。
③名前を入力する。
④決定ボタンを押す。

7　クラス等2つ以上に所属する場合は，追加登録する。

1～6を繰り返し，5や6で追加するクラスを追加登録する。

【香川発】新たな全国大会の創造

1　現状の分析

近年の全国大会を見てきて、事務局として課題としたいことが2つある。

1つは、参観者が少ないことである。昨年度の東京大会にて、明治小学校を参観した。授業会場を見渡してみると、ある学級には60人程度の参観者がおり、廊下まで人で溢れていた。しかし、多くの教室で20名を下回り、2,3人という学級もあった。同じように汗を流し、研究を進めてきたにもかかわらず、当日の授業で参観者がいないというのは、授業者にとっても学校にとっても悲惨なことである。参加者を増やす方策を立てたい。

2つめは、会の運営が滞ることである。授業の善し悪しだけでなく、いかにストレスなく大会に参加できるか考える必要がある。

参加者を増やし、円滑な運営を実現すること。これらを大会運営の柱としたい。

2　課題の抽出と目標の設定

【課題】

本大会に比べて、年度大会への参加者は少ない。理事会も開催されないので、義務として参加する人も少ない。2月という時期の気候を考えても、いいとは言えない。本大会が名古屋である。香川と天秤にかけても、地の利がいいとは言えない。人が集まる状況ではない。

【目標】

参加者1000人以上の参会者

十河小学校(6学年×2)観音寺小学校(4学年×2)の公開と考えた場合、各教室を一杯(50人程度)にするには50×20＝1000人の参加者が必要である。

3　コンセプト

多くの人が集い，ともに夢をえがく全国大会

～三方よしのにぎわいの創出～

4　施策展開案

■香川県の取り組み

1　県の振興活動でのPR
2　物販販売(サンポート高松)
3　コンベンションビューロ
4　HP等での宣伝

→県の観光振興につながることをアピール

■香川県教育委員会

1　県の広報誌での宣伝
2　大会へ参加しやすい体制作り

→香川型教育の発信
→若い教員を育てる機会になることのアピール(県全体の底上げ)

香川県教育委員会
Kagawa Prefectural Board of Education

■香社研の取り組み

1　組織の確立

「動ける組織※1」づくり
・研究の推進　・若手の台頭　・女性の増加

「支える組織※2」づくり
・教頭先生の出番増加(指導助言など)
・校長先生の一体的サポート(会場校の司会など)
・香小研の大会参加へのバックアップ(全国大会への参加がしやすいようにする)

※1「動ける組織」とは、主に研究を発信する者をさす。
※2「支える組織」とは、大会運営を支える者をさす。

2　研究発信(大会PR)機会の増加
・全国大会,四国大会での提案
・研究論文での発信(全小社論文、教育誌など)
・研究図書の発刊
・HPやブログ、Facebookなど
・夏季研や研究フォーラムの他県や中学校、大学生への働きかけ
・案内状の発送
・携帯メールの活用
・教育新聞社等報道機関の取材、活用
・講師(澤井・安野・中田)のPR促進

3　大会日程の工夫
・これまでの全国大会と違う内容と日程の変更

香社研事務局